

令和2年度
「ふるさと学習」
実践事例集



令和3年4月
廿日市市教育委員会

令和2年度 「ふるさと学習」 実践事例集

目 次

〈学校名等〉	学年	〈单元名〉	〈ページ〉
1 廿日市小学校	5	食べ物を調べよう～地産地消のオリジナル弁当を作ろう～	1～3
2 平良小学校	4	じまんのマイタウン「はつかいち もくもく調査隊」～廿日市のすばらしさを伝えよう～	4、5
3 原小学校	3	原のくらしから学ぼう	6、7
4 宮内小学校	3	宮内ってすてき！～宮内のよさを発信しよう～	8、9
5 地御前小学校	5	地御前の海を守ろう～地御前の水産業について詳しく知り、まとめよう～	10、11
6 佐方小学校	3	安心してくらせるまちづくり～佐方の町親切プロジェクト～	12、13
7 阿品台東小学校	6	ずっと住み続けたい阿品台に！	14～17
8 阿品台西小学校	3	阿西小のすてき～学校のすごいところを見つけよう～	18、19
9 金剛寺小学校	3	大好き串戸～串戸のすてきな場所を調べよう～	20、21
10 宮園小学校	3	みんなのピオトープ～みんなのピオトープを大切にしよう～	22、23
	6	宮園の未来のために～宮園に住む私達からの提案～	24、25
11 四季が丘小学校	4	みんなで命を守り隊	26、27
12 友和小学校	5	竹炭の魅力を広めよう	28、29
13 津田小学校	6	津田の歴史をたずねよう～津和野街道～	30、31
14 吉和小・中学校	小3～中3	「SDGs」で吉和の未来を考える～持続可能な吉和のまちづくりに向けて～	32、33
15 大野東小学校	3	大野のすてきをみつけよう～ボランティアについて調べよう～	34、35
	4	災害を調べよう・災害に備えよう	36、37
	6	大野の今を見直そう！	38、39
16 大野西小学校	4	大野のステキを見つけよう～大野の達人から学ぼう～	40、41
17 宮島小・中学校	5、7～9	自然とともに生きる	42、43
18 廿日市中学校	1	“新しい” はつかいち・宮島学習	44、45
19 七尾中学校	2	ふるさと廿日市の企業をプレゼンしよう	46、47
20 阿品台中学校	3	よりよいふるさと阿品・阿品台～中学生から発信！ステキな街づくり～	48、49
21 野坂中学校	2	廿日市市について探ろう～宮島学習～	50、51
22 四季が丘中学校	1	ふるさと廿日市の魅力を学ぼう～廿日市の食、情報、製作から～	52、53
23 佐伯中学校	2	ぼくたち わたしたちに今できること	54、55
24 大野中学校	1	大野元気プロジェクトⅠ～身近な地域から学ぶ～	56、57
25 大野東中学校	1	地域を知ろう～大野検定をつくろう～	58、59
26 廿日市市教育委員会		令和2年度「ふるさと学習」に係る取組	60

単元名

「食べ物を調べよう」 ～地産地消の オリジナル弁当を作ろう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

- ・廿日市産の食材・伝統料理を調べ、オリジナル弁当を考える活動を通して、郷土の良さを再確認する。また、課題解決に主体的に取り組む、協力して課題の解決を行う力を育成する。
- ・キャリア教育の視点から、オリジナル弁当販売体験を通して、働くことの価値を考えていく。
- ・ふるさと学習発表会、オリジナル弁当発表会を開き、自分たちの活動のまとめとし、お世話になった方々への感謝の気持ちを伝える中で、表現する力を高める。

【連携諸機関・人物】

廿笑応援団
J A 佐伯中央 久保りか様
阿品台西小学校 川尻 花恵栄養教諭
平良小学校 吉山 由衣栄養教諭
株式会社 A & C 木本雄太様

◆学習活動の実際（全70時間）

学習活動	他教科等との関連
〈課題の設定〉 お米について調べよう 〈バケツ稲を育てよう〉…5月～12月 ・J A 佐伯中央の久保さんの指導のもと、バケツ稲を育てながら、収穫後の米の活用法について考えた。 〈お米について調べよう〉…6月～7月 ・米の栄養や調理法・米作りの歴史や道具の変遷、世界の米の種類や料理の違い、米という漢字の由来や米に関わることわざ、稲の成長の様子や水田の環境への影響など、様々な切り口から米について一人一人がテーマを決めて調べたことを新聞形式にまとめ、発表した。  6月7日 バケツ稲作り …代掻き・苗植え  7月～8月 お米について …調べ学習  バケツ稲作り …夏休みの水やり 〈課題の設定〉…9月初旬 地産地消のオリジナル弁当を作ろう！ 〈活動の見通しをもつ〉…9月初旬 ・収穫する米の使い道を、児童が話し合って決めた。 ・地産地消のオリジナル弁当を作るための課題を出し合い、仕事分担を考えた。 ・自分たちの目標と、弁当の名前を決めた。 →ご飯、肉、魚、貝、野菜1、野菜2、デザートの7グループに分かれる。 →パンフレット、包装紙担当を立候補で決定した。 〈廿日市産の食材を調べる〉〈料理のテーマを決定する〉…9月中旬～下旬 ・社会科の食糧生産についての学習を踏まえ、地産地消の考え方を取り入れた料理案を考えていった。 ・料理の形や材料、ネーミングに生かすため、校区の史跡・歴史等を調べた3学年時の学習内容を振り返ったり、保護者へインタビューをしたりして必要な情報を収集した。 〈弁当に入れる料理を決定し、分担を決定する〉…9月下旬 ・グループの料理を決め、料理名、材料、作成順等を決定した。 ・食育授業で学んだ、主食・主菜・副菜等のバランスを考慮に入れた。 〈弁当に入れる料理のレシピを作る〉…9月～11月 ・栄養バランス、彩り、価格等の視点から、料理を考え、修正を加えながらレシピを作っていた。 →クラスのアレルギーのある児童に対応したメニュー作りの工夫を行った。 ・弁当の価格を設定し、人件費等がかかることを考慮に入れて材料を吟味した。	【社会科】「わたしたちの食生活と食料生産」で学ぶ、「国民の食生活を支える米作りについての学習」を、「米作りについて実践を通して学ぶ活動」に関連付けた。 【国語科】「新聞記事を読み比べよう」で学んだ「書き手の意図を考える学習」を生かして、「自分の編集の意図が伝わる見出しの付け方や写真の活用法を考えてまとめる活動」に活用した。 【社会科】「これからの食料生産」において、「我が国の食料生産は、国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていること」を実感させる目的で、「地元産品を活用したメニューを考案する活動」に関連付けた。 【社会科】「多角的に思考・判断・考察する力」を、「調理を通して環境、食糧の安定供給を実現する地産地消について考えていく活動」に関連付けた。 【3年生社会科・3年生総合的な学習の時間】 「わたしたちの市のようす」で学んだ地元の産品や、「魅力発見！廿日市」で取り組んだ「廿日市の史跡や名産品を発見する活動」を、「史跡や歴史にちなんだ料理を考案する活動」に関連付けた。



食育授業 …栄養のバランスの とれた食事をしよう

9月6日



オリジナル弁当 レシピ作り

9月～11月

〈弁当レシピ検討…栄養教諭による指導〉…11月6日

- ・栄養教諭により、児童の料理案へのアドバイスをいただいた。



バケツ稲作り …稲枯れの原因を探る …脱穀・精米体験

10月23日



弁当レシピ 検討 …栄養教諭による 指導

11月6日

〈弁当の検討会を開く〉…12月4日

- ・弁当販売を委託する、株式会社A & Cの木本さんと、第1回目の弁当の検討会を行った⇒地産地消の観点は、レシピ上押さえておきたいことを伝えた。
また、児童がお弁当の中で改善してもらいたい所を伝えた。



12月4日

弁当の検討会 …弁当会社との協議

〈ふるさと学習発表会の練習を行う〉…11月～1月

- ・弁当の工夫やアピールポイントをふるさと学習発表会の発表用にまとめ、言い方や映像の効果的な表現の工夫を行った。

〈パンフレット、包装紙を作成する〉…10月～1月

- ・弁当の工夫やアピールポイントをまとめたパンフレットを作成した。
- ・弁当の包装デザインを考え、作成した。



パンフレット



包装紙

〈ふるさと学習発表会の動画作成〉…1月25日

- ・1年間の学習をまとめ、自分達のお弁当をアピールするため、動画撮影を行った。



〈弁当感謝祭の計画を立てる〉…1月～2月

- ・感謝を伝える会の目標を確認し、目標や招待する方々、会の流れを考えた。
- ・分担に沿って準備、練習を行った。

〈自分達の考えたオリジナル弁当の試食〉2月10日



〈弁当の発表会・感謝祭を行う〉2月19日

- ・廿笑応援団等、お世話になった方々を招いて弁当発表会・感謝祭を行った。



感謝祭



お礼の手紙

〈弁当販売勉強会を行う〉…3月12日

- ・株式会社A & Cの木本さんに、販売の際の心がまえや注意点を教えて頂く。

〈弁当販売作戦を行う〉…3月22日・23日・24日

- ・廿日市小学校職員玄関前にて、弁当を販売する。(各クラス分担で計3日)

→作ったパンフレットやポスターを掲示し、当番制で販売を行う。

→販売体験を通し、これまで関わっていただいた方々や買ってくださる方々への感謝の気持ちをもつことをめざす。

☆弁当引き渡しの時間の都合のつかない方用に、株式会社A & Cでの販売も行った。

☆弁当注文については、トラブル防止のため株式会社A & C様に直接電話していただく方式とした。



販売バージョン
弁当

【学級活動】「食生活を見直そう」

【家庭科】「おいしい楽しい調理の力」で学んだ「安全と衛生に気をつけて調理をする力」を「オリジナル弁当の調理計画作成活動」に活用した。

【社会科】「わたしたちの食生活と食料生産」、3・4年生の「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」と関連付け、販売の仕事については商品の品質管理、値段の付け方、宣伝の仕方などに見られる仕事の工夫を学んだ。生産の過程で様々な費用がかかること、輸送に費用がかかることなどを取り上げ、消費者の需要にこたえる生産や運輸の工夫に気付く学習を踏まえ、弁当の価格の設定について考える活動に結び付けていった。

【家庭科】「食べて元気！ご飯とみそ汁」で学習した、「毎日の食事を振り返り、バランスのとれたよりよい食生活を考える学習」を、「栄養バランスを考えた弁当の材料を考える学習」に関連付けた。

【社会科】「環境を守るわたしたち」の環境汚染から健康や生活環境を守るためのわたしたち一人ひとりの努力や協力の大切さを考えようとする」という目標に関連付け、環境に良い調理の方法も学び、環境保全を考えた活動に高めていった。

【家庭科】「めざそう買い物名人」での「身近な物や金銭の計画的な使い方、目的に合った物の選び方や買い方について考える学習」に関連付け、生鮮食品の旬や価格の変動についても学びを深めていった。

【国語科】「和の文化を受けつぐ和菓子を作る」で身に付けた「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする力」を「弁当の主旨を的確に伝えることのできるパンフレットを作る活動」に活用した。

【図画工作科】「心のもよう」で身に付けた「自分の思い描いたイメージが表れるような形や色を考えて表現する力」を、「弁当の主旨を的確に伝えることのできるパンフレットを作る活動」に活用した。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、活動の紹介や弁当販売のPRに生かす。

【キャリア教育】お弁当を売る活動を通して、学校や地域の一員として、自らの役割を果たし、職業に真摯に向かう態度を培う。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、企業の担当者に教えて頂いたことと合わせ、販売に向けて自ら工夫するところを考える。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、弁当の販売PRに生かす。

【社会科】3・4年生の「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」と関連付け、販売の仕事については商品の品質管理、売り場での並べ方や値段の付け方、宣伝の仕方などに見られる仕事の工夫について考える活動に結び付ける。

〈1年間の活動の振り返りを行う〉…3月 ・活動を振り返り、成長できたことを文章にまとめ、交流する。	
〈児童生徒の感想・振り返り〉	
・稲が枯れて、残念だった。農家の方々が苦労してお米を作っておられることが改めて分かった。お米を残さず大切に食べていきたい。 ・日本の文化は、稲作やお米からつくられたと分かった。お米を食べることで文化を守っていきたい。 ・自分の考えた料理をみんなで考えることができて、嬉しかった。家で作って食べてみると、おいしかった。 ・バケツ稲作りでとれたお米を、お弁当の料理に使って、みんなに味わってもらいたい。 ・あなごめしやかきだけでなく、桶寿司など廿日市の名物料理を知ることができた。ふるさとをもっと好きになってほしいと考えて、私たちもお弁当を作った。 ・廿日市の食材は、おいしいものがたくさんあるので、これからも地産地消を考えて家でも食べてみたい。 ・お弁当を考えるのは楽しかったが、細かいところまできちんと決めていかないといけないことが分かった。 ・感謝祭を計画する中で、改めてたくさんの方々にお世話になったことに気付いた。 ・店で売られるまでに多くの人が働いておられ、品物が工夫や努力で作られていることが分かった。 ・自分たちの（考えた）お弁当を、お弁当屋さんで作ってもらって完成していて、うれしかった。 ・自分たちのお弁当のよさをみんなに伝えたい。廿日市の名物としてみんなに広めたい。	

〈効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について〉	〈児童生徒の変容〉
・3年生の総合的な学習の時間の学習を想起させ、廿日市地区の史跡や名物を料理のテーマにする点を徹底した。 ・感謝祭を最終的な活動のまとめに設定し、活動が多くの人々の支えで行われてきていることに常に立ち返らせながら活動を進めた。 ・バケツ稲作りの、稲への水やりや害虫駆除、脱穀や稲刈りの作業を体験させた。稲が枯れたことから、農家の苦労についても目を向けさせ、自らの食生活について振り返る活動、米についての調べ学習を行い、普段の自分の生活や意識について振り返り、考えを深めていくことができるよう留意した。 ・地元で生産されている食料品について、社会科の学習と関連付けて考えさせ、電子黒板で画像を提示しながら生産者の思いも伝えていくよう留意した。 ・児童自らのレシピ作りに時間を割り、保護者に、懇談会や通信を通して家庭での調理体験を増やしていただけるようお願いして自らの体験で改善を行っていった。 ・課題を高いレベルに設定し、児童同士の対話的活動を中心に活動を進めていく中で、話し合いの進め方、出された意見への評価を通して方向性を示す指導を徹底した。 ・販売に向けた企業との連携が実現し、販売に向けての課題発見解決学習を児童主体で行っていただけるよう留意した。	・廿日市校区の良さを再確認し、料理という形に表現することで、郷土に対する愛着が深まった。 ・廿笑応援団やJA佐伯中央の方々への感謝の言葉が、自然と出るようになった。 ・自分の食生活を振り返り、「感謝して食べる」、「残さないように食べる」など、食材を作る人、調理をする人の気持ちを考える児童が増えた。また、日本文化に米が深く関わっていることに気付き、米食を守っていくことの必要性について考えを深めることができた。国語の「和の文化」の調べ学習でもこの気付きを生かしていくことができていた。 ・地産地消への意識の高まりなど、活動を通して得たことを、児童が日常生活に生かしている。 ・オリジナル弁当を、自分たちで考え、自分たちが作り上げる過程で、今年度学校では難しかった調理を家庭で体験できた児童が多かった。 ・弁当作り、弁当発表（感謝祭）の企画・進行をクラスで協力して行う中で、相互理解が進み、友達との連帯感と自己有用感が高まった。 ・販売に向けての主体的な取組を通して、自分たちの思うとおりに進まない体験、柔軟な思考によって課題を解決していく経験ができた。
〈今後に向けた「改善点」〉	
・稲の虫害は、年々深刻さを増し、特に今年度は収穫0であった。防虫ネットをかけて予防したにもかかわらず、このような結果になってしまった。バケツへ入れる土の量を増やす、バケツの場所を変える等、考えられる対策をとるよう来年度に引き継ぐ。 ・販売体験は、企業との信頼関係の中でスムーズに準備が行える。シティープロモーションの方々、廿日市市教育委員会の田村有樹子指導主事、そして株式会社A＆C様との連携・信頼感を大切にしていけることが肝要である。活動においては、ねらいを児童にしっかり把握させた上で教員児童の動きをしっかりと考えて事前に指導しておく必要がある。 ・今回は初めての試みということで、株式会社A＆Cの方に進めていただくことが多かった。児童のさらなる主体的な活動をめざし、チラシや販売チケット製作等、取り組みの幅を広げたり、地域・外部との連携を図ったりしていきたい。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、当初計画していた活動ができなかった。特に桶寿司作り体験は、今年度6年生の活動から5年生に移したところで中止となり、来年度に実施課題を残した。 ・当初予定していた活動ができないところはあったが、児童は様々な活動の中で課題解決をめざして話し合い、高め合いながらふるさと学習発表、販売と意欲的に活動に取り組んでいた。	

単元名

じまんのマイタウン 「はつかいち もくもく調査隊」

～廿日市市のすばらしさを 伝えよう～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

自分たちで調べた廿日市市と木材の関係や歴史、産業について家族に伝える方法を考え、発信する活動を通して、課題を自ら見出し、課題解決に向けて主体的に活動する態度を育てるとともに、自分たちの住んでいる地域の一員として行動しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

平良小職員・保護者
市役所（教育委員会・シティ
ープロモーション室）

◆学習活動の実際（全52時間）	他教科等との関連
学習活動 〈課題の設定〉 - 前学年で行った総合的な学習の時間の学びを、児童が前学年に作成した新聞を基に振り返る場を設定した。児童は説明をしながらまだ十分に廿日市市と木材の関係について調べきれていないことに気づき、さらに調べたいことや疑問に思うことをワークシートに書き出した。 - 児童から出た疑問を分類したり、共通点を見つけさせたりして、単元を貫く課題を設定した。 じまんのマイタウン 「はつかいち もくもく調査隊」 ～廿日市市のすばらしさを 伝えよう～ 1学期 はつかいちを もくもく調査しよう（24h） 〈情報収集① 身近な大人にインタビューする〉 「なぜ、廿日市市は木の町と呼ばれているのか。」ということについて、平良小学校の教職員や、保護者にインタビューした。 - インタビューしたことを整理し、分かったことやさらに疑問に思ったことをまとめた。 - 山が多い（地形）。 - 木材港がある。 - 宮島細工が木材で作られている。（ろくろ、しゃもじ、宮島彫り） - けん玉が有名。 - 宮島の大鳥居も木材でできている。 - 廿日市市に木材の会社（ウッドワン）がある。など 〈情報収集② 本やインターネットで調べる〉 - インタビューで分かったことや疑問に思ったことを、本やインターネットを活用して情報収集をした。分かったこと、分からないことを整理し、ゲストティーチャーに質問したいことを考えた。	【社会】 「わたしたちの県の様子～地域の産業・伝統工芸」において、廿日市市の木について調べ、地域の自然環境や産業に関心をもちさせた。

〈情報収集③ ゲストティーチャーの話を聞く〉

- ・ 情報収集をするために依頼文を書き、ゲストティーチャーを招いた。
- ・ ゲストティーチャーの方から、廿日市市の木材の歴史や産業、木材の良さ（効果）などについての話を聞き、「なぜ、廿日市市は木の町と呼ばれているのか。」ということについて自分なりに考えを深めた。



＜廿日市市の木材についてゲストティーチャーから話を聞く＞

2学期 はつかいち もくもく調査 発表会をしよう (28h)

〈分かったことを整理し、リーフレットを作成する〉

- ・ 本やインターネットで調べたことや、ゲストティーチャーから聞いた話を整理し、どんな内容にするかを決め、割り付けを考えて(文章の内容や写真など)、リーフレットにまとめ、交流した。



＜児童が作成したリーフレット＞

〈振り返り〉

- ・ 学習の振り返りを行い、廿日市市の木材の歴史を受け継ぐ仕事に就いている人たちの思いに触れながら、これからの自己の生き方について考える。

【国語】

「メモの取り方をくふうして聞こう」で身に付けた、メモの取り方、情報の収集・選択を活用した。

【国語】

「ふるさとの食を伝えよう」で身に付けた、調べたことを理由や事例を挙げて書いたり、割り付けを考えながら作成したりする方法を、リーフレットにまとめる活動に活用した。

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・ 廿日市市は宮島細工や大鳥居、けん玉など多くの物に木材が使われているということに気がきました。「木の町廿日市」の象徴である平良小学校の校舎の素晴らしさや、木材の歴史について自分が分かったことを広めていきたいと思いました。
- ・ 宮島のしゃもじは「日本一の木製しゃもじ」と言われていることが分かり、自分が住む市のことを誇らしく思いました。家族にも教えてあげたいです。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】

- ・ 「課題設定」の段階で、前学年で作成した新聞を基に調べたことを説明する場を設定した。
- ・ 課題に対して、調べて分かったことや分からなかったことを整理・分析した上で、ゲストティーチャーに話を聞く場を設定した。

【児童生徒の変容】

- ・ 児童は木材について理解していると思い込んでいたが、他の児童や教師からの質問に対して的確に答えられないもどかしさを感じるとともに、十分に調べきれていないことに自ら気づき、もっと深く調べたいという意欲を高め、見通しをもって活動に取り組むことができた。
- ・ 分からないことが明確なため質問する内容が深いものになり、調べた知識が確かなものになったり、

【今後に向けた「改善点」】

- ・ 調べてまとめたことを、児童同士の交流のみで終わらせたため、他学年や地域の方など、発信する先や方法を工夫することで、より相手意識や目的意識をもってリーフレット作りに取り組めるのではないかと考えられる。

単元名

原のくらしから学ぼう

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】お米について、観察したり調べたりする活動を通して、自ら課題を発見し、追究する。また、稲刈りなどの体験活動を通して、地域のお米を育てている人の苦労や願いを知り、地域に愛着を持つとともに、地域のために自分達にできることを考え、実践する。

【連携諸機関・人物】

- ・地域の方
- ・見守り隊の方
- ・シティプロモーション室

◆学習活動の実際（全70時間）

学習活動	他教科等との関連
〈米作りについて調べる〉 ・地域の方に、田んぼを貸していただくをお願いをする。 ・米作りについて調べ、分類・整理して分かりやすくまとめ、発表する。 ・田植え体験をする。     〈稲の観察〉 〈田んぼの観察〉 〈田植え〉 〈田植え機〉 〈体験活動を通して、お米を育てている人の苦労や願いを知る〉 ・稲刈り体験をする。 ・脱穀体験をする。 ・もみすりや精米の体験をする。 ・自分達が育てたお米の試食をする。     〈稲刈り〉 〈脱穀〉 〈試食〉 〈精米体験〉 〈課題の設定〉 わたしたちの米作りについて紹介しよう。 ・米作りについて整理し、まとめる。 ↓ ・映像を示したり、動きを付けたりしながら、学習発表会で発表した。 ・「何のためにやるのか」という目的意識を持って、ふるさと学習の動画作りに参加した。    〈学習発表会〉 〈動画撮影の様子〉 〈地域の方へ感謝の気持ちを伝える〉 ・米作りの体験を通して、お米を作っている方の思いや願いを考える。 ・自分たちが地域にできることを考え、計画を立てる	【国語】「メモを取りながら聞こう」において、地域に住む田中さんに、米作りの大変さや喜びについてインタビューをした。 【理科】「どれぐらい育ったかな」と関連付けて、成長を見守った。 【社会】「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」において、自分達が住んでいる地域の移り変わりや、未来に望む姿を考える学習を関連付けた。

〈課題の設定〉 <u>地域の方へ感謝の気持ちを伝えよう。</u> ・自分達にできることを追究し、実現させるための方法を考える。 ・考えた方法を実践する。 ↓ ・<u>カレンダー作りに取り組み、お世話になっている地域の方や見守り隊の方へお米と一緒に届けた。</u>  〈手作りカレンダー〉  〈地域の方や見守り隊の方へ届けた様子〉 〈振り返り〉 ・分かったことや、地域の方やお米を育てている人の思いをまとめ、自分の考えをまとめる。	【道徳】「見守り隊さんありがとう」において、地域のお世話になっている方々へ感謝を伝える活動に関連付けた。
---	---

【児童生徒の感想・振り返り】	
・最初から最後まで、米作りを体験して、お米がどのように育つか分かりました。 ・米作りは一年中お世話をしないといけないから、すごく大変だということが分かりました。 ・手伝ってくれた方に、感謝の気持ちを伝えたいと思いました。 ・米作りは大変なことが分かりました。これからは今までよりもっと、大切に味わってお米を食べたいと思いました。 ・自分で作ったお米はいつもよりおいしく感じました。 ・学習発表会や動画撮影は緊張したけど、一人ではできないことも、みんなで協力すると頑張ることができました。 ・原の田んぼが減っていることに気が付きました。自分が米作りを引き継いでいきたいと思いました。 ・原はきれいな景色があるから、自然がそのままであってほしい。 ・原がにぎやかな町になってほしいから、出会った人にいつも自分から挨拶をしたい。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・田んぼを貸していただくお願いをすることから始め、田植えや収穫等の体験活動を通年で行った。	・自分達が中心となって活動するという主体性が育った。また、最初から最後まで米作りに携わることで、米作りの大変さや、収穫の喜びを実感することができた。
・組み立てを考え、目的意識を持って、動画収録に参加した。	・動作をつけるなど、分かりやすく伝えるための表現を工夫する姿勢が深まった。
・自分達に出来ることを考え、相談し、お米カレンダーを作成した。収穫したお米と一緒に、地域の方へ届けた。	・自分達に出来ることを考え、実践すること、地域の方から反応が返ってくること、自己有用感が高まった。
【今後に向けた「改善点」】	
・年度当初にゴールイメージを設定することで、見通しを持った活動にしたい。 ・今後とも地域の方と連携を図り、「米作り」を通して地域に誇りを持っているという「実感」を感じさせる取組の継続が必要である。また、学校の取組を地域へ発信するきっかけや方法を考えていきたい。	

単元名

宮内ってすてき！ ～宮内のよさを発信しよう～

【関連のあるSDGsの目標】



◆単元の目標

- 自分たちが住んでいる町に関心を持ち、情報を集め、リーフレットを作る活動を通して、宮内・廿日市の良さに気づき、地域に誇りと愛着をもとうとする。

【連携諸機関・人物】

- ・保護者

◆学習活動の実際（全23時間）

学習活動	他教科等との関連
＜宮内のよさを出し合う＞ ・スーパーがたくさんある。（ビック・ユアーズ） ・食べ物屋さんがたくさんある。（すき家・モスバーガー） ・車屋がたくさんある。（トヨタ・スバル・スズキ） ・宮内から出なくても生活できる。（病院・郵便局・銀行） ・自然がある。（御手洗川・田・畑） ・生き物がたくさんいる。（トンボ・セミ・たぬき・猿・魚） ・歴史がある。（専念寺・天王社） ＜課題の設定＞ 宮内のよさを発信しよう。 ＜情報収集をする。＞ 宮内を西コース、東コースに分け、探検し情報収集を行う。 ＜情報収集を整理分析する＞ ○ 3つの観点に分けて宮内のよさを整理し、それをどのような方法で伝えるかを考える。 ・自然 ・歴史 ・施設 ＜まとめる＞ ・宮内のよさが伝わるよう、写真なども使いながらリーフレットにまとめる。 ＜発信する＞ ・保護者の方に向けて、宮内のよさを伝える。 ＜振り返り＞ ・学習の振り返りを行う。	【社会】[学校のまわり]の学習から学校のまわりにあるものを出し合い宮内のよさに繋げた。 【社会】[働く人とわたしたちの暮らし]の学習で学んだことと、宮内にある施設を比較しながら調べた。 【国語】「外国のことをしょうかいしよう」の学習から、調べたことや意見の伝え方を工夫した。



【児童生徒の感想・振り返り】	
・宮内についてもっと知りたい。 ・店や施設がたくさんあって生活しやすい町だと思った。 ・御手洗川など、景色が綺麗なところがあると分かった。 ・店や施設がたくさんあって便利だし、自然もたくさんあることが分かった。 ・色々な公園があり、それぞれ特徴があって面白いと思った。 ・写真や電子黒板を使って友達に分かりやすく説明することができた。 ・リーフレットに紹介したいことを分かりやすくまとめることができた。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
○グループ編成の人数を課題ごとに5～6人ずつの少人数で分けた。	・少人数の学習のため、一人一人がめあてをもって主体的に学習に取り組んだ。
○社会科「働く人とわたしたちのくらし」の学習で学んだことを生かした。	・自分たちの地域にあるスーパーマーケットと学習したことを比べながら調べることができた。
○国語科「外国のことをしょうかいしよう」の学習の中で、調べたことや自分の意見の伝え方について学んだことを生かした。	・効果的に意見を伝えるために写真や絵を使う児童が多かった。 ・聞き手を意識した発表をしようとすることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・保護者やクラスだけでなく、学習したことを他学年と発表し合い交流の場を設定すればよかった。 ・成果物を学校全体に向けて発信することができなかった。 ・新型コロナウイルスの影響で、校外学習の回数を多くもつことができず、地域の人に話を聞くこともできなかった。そのため、実際に観たり聞いたりする情報収集が十分できなかった。また、調べ学習に頼らざるを得なかったため、家庭による差が大きかった。 ・約80名の児童が校外に出て施設などの室内を見学することが難しいため、今後もコロナ禍が続くようであれば、オンライン等利用したインタビューができたら良い。	

単元名

「地御前の海を守ろう」 ～地御前の水産業について詳しく知り、まとめよう～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

全国に知られる地御前牡蠣、自分たちが住んでいる地場産業の一つである水産業について理解を深め、一層ふるさと「地御前」のよさに気づき、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

地御前漁業協同組合
地御前郷土文化保存会

◆学習活動の実際（全70時間）

学習活動	他教科等との関連
〈自分たちが住んでいる地域のよさを話し合う〉 ・3, 4年生時の「ふるさと学習」を振り返る。 〈地域で盛んな水産業に興味を持つ〉 ・廿日市ではとる漁業、育てる漁業等、様々な水産業が盛んであるが、その中でもブランド化された地御前牡蠣について知る。 ・地元の水産業について、調べたいことや調べる方法を考える。 〈テキストをもとに牡蠣学習を行う〉 ・地御前漁業協同組合の方から牡蠣の歴史や牡蠣の養殖法等といった基礎知識について、話を聞く。 ※コロナ感染拡大の影響を受け、今年度は実施できず、昨年度の内容をもとに各担任から話を聞きながら学習を深める。 ※使用資料 漁協・文化保存会・県商工労働局 各作成資料 他 ・自分たちの役割を考える。（地域の宝を発信する、守り育てる等） 〈課題の設定〉 地御前の水産業について詳しく知り、地域の宝を発信しよう！ 〈役割を果たすために必要な活動を考える〉 ・学習の計画を立てる。（課題を追究する→整理する→発信する） 〈牡蠣養殖業の様子を詳しく調べる〉 ・体験活動により情報を収集する。 ①ホタテ貝殻通し（採苗連）体験学習 ②採苗した牡蠣種苗の観察 ③牡蠣収穫とむき身体験学習 ※①③については、コロナ感染拡大の影響を受け実施できず、昨年度の活動写真等をもとに学習を行う。 ・牡蠣養殖業の問題点や働く人々の努力や工夫等を情報収集するため、依頼文を作成する。 （調査対象：地御前漁業協同組合 協力：地御前郷土文化保存会） 〈各テーマに沿って情報を収集する〉 ・発信したい内容を整理する。 （牡蠣が育つ環境、牡蠣の魅力、牡蠣豆知識、地御前牡蠣を支える人々等）	【社会】「水産業のさかんな地域」における「つくり、育てる漁業はどのように行われているのか調べ、まとめる学習」を「資料を読み取る学習」に関連付けた。 【国語】「知りたいことを聞きだそう」における、自分が知りたい情報は何かという意図を明確にしたうえで聞き出したいことを整理する力を活用させた。 【国語】「和の文化について調べよう」における、観点に沿って情報を整理し、自分の伝え

・得た情報をもとに必要な情報を選び、整理・分析する。 ・地域行事に参加する。（１月 とんど祭り等）※２月の牡蠣祭りは中止 〈発信する〉 ・地御前牡蠣のイメージキャラクターを考え、興味をもたせる構成を考える。 ・自分の考えをもつと共に、話し合いにより考えを深め広げる。 ・調べて分かったことや考えたことを新聞、リーフレット、パンフレット等にまとめ、地域の公共施設等に掲示する。 ・参観日を利用し、お世話になった方や保護者に学んだことを伝える。 〈学習を振り返る〉 ・学習の振り返りを行い、これからの生き方（自分たちにできること）を考える。	たいこととの関連を考えながら、必要な情報を選んだり組み合わせたりする力を活用させた。また、「文章だけでは伝わりにくい内容を分かりやすく説明するために、図や表、写真などの資料を効果的に活用する学習」を「パンフレット等にまとめる活動」に関連付けた。 【社会】豊かな海や山の自然を守るために「環境を守るわたしたち」において、「今自分にできること」や「大人になってできること」「今後やってみたいこと」など社会参画を意識した取組へと結び付けた。
---	---

【児童生徒の感想・振り返り】	
・地元に住んでいれば自然と目に入ってくる積み上げられたホタテの貝殻や干潟の抑制柵（沖の牡蠣筏）。一方で、身近にありながらそれが何のために実在しているのか等、子どもたちにとって深く関わることのない風景。まず、そうした地元の教材を活用することで、子どもたちは「どうして？」「知りたい！」「調べたい！」と興味をもちながら、意欲的に学習に取り組むことができた。 ・今年度は、残念ながら地御前漁業協同組合の方や地御前郷土文化保存会の方から直接話を聞く機会を設定することはできなかったが、学習を進めていく中で、子どもたちにとって地場産業とそれに関わる地域の人たちがより身近な存在として感じられるようになっていった。（特に文化保存会の方の多くは、登下校の見守り隊として普段からよく関わってくださっている）今後、地域の絆をさらに深めるためにも、学習の中でこういった交流活動ができるのか検討していく必要がある。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・国語科「和の文化について調べよう」の学習と関連付け、「ふるさと地御前」の文化について調べ、報告をパンフレット等にまとめさせた。	・どんな観点で、どんなことをどのような方法で詳しく調べればよいか、見通しをもち学習を進めることができた。また、情報を収集し整理する中で、報告することを分かりやすく伝えるために必要な資料を活用することができた。
・コロナ禍の中で、水産業に携わっている人に直接インタビューを実施することができず、手紙を書いて情報を収集させた。	・漁業協同組合からのメッセージを通して、牡蠣養殖の問題点や工夫だけでなく、今後一人ひとりに期待されていることに気付くことができた。
・社会科「環境を守るわたしたち」の学習と関連付け、自分にできることを考えさせた。	・海、川、山の一体となった環境保全活動だけでなく、学習したことを伝えていく活動も大切であることに気付くことができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・郷土愛を育む豊かな土壌（歴史・文化・産業等）を生かしながら、目的意識を明確にした学習を進める。 ・体験活動ができにくい中、インタビューや牡蠣養殖作業の様子についてビデオ等に録画する等、学びを深めていく工夫をする。	

単元名

安心してらせるまちづくり ～佐方の町親切プロジェクト～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

自分達の住む地域にはいろいろみち人が暮らしていることを知り、間接的なインタビューや話を聞いたり、インターネットで調べたりしたことを新聞でまとめ、友だち・保護者への発信の学習を通して、課題を追究し、自分にできることを考え、相手や目的に応じて、実践していこうとする。

【連携諸機関・人物】

保護者
地域の盲導犬ユーザー

◆学習活動の実際（全47時間）

学習活動	他教科等との関連
〈課題の設定〉4時間 ・みんなにやさしい町とは何か考える。 ・佐方の町 人にやさしいプロジェクトを立ち上げ、どんなことを調べ、誰にどんな方法で伝えていきたいか話し合う。 安心してらせるまちづくり～佐方の町 人にやさしいプロジェクト～ 〈情報収集〉22時間 ・学校探検をして、やさしい設備やサポートを探し、理由を考える。 ・スーパーマーケット（フジ）の写真見学・間接インタビューを通して、やさしい設備やサポートを見付ける。 ・盲導犬ユーザーの話を聞いて、体の不自由な人のサポートの仕方の大切さや願いを感じ取る。 ・学校の登下校の中や家族でのお出かけの中でやさしい設備やサポートを探す。 ・インターネットで「バリアフリー」や「自分が見つけた人にやさしい設備」について、詳しく調べる。    〈整理・分析〉3時間 ・見つけた人にやさしい設備やサポートの共通点や相違点をグループで話し合う。 ・もっと調べてみたい人にやさしい設備やサポートを自分の希望も伝えながら、グループの中で多様な意見が出るように協力して活動する。  	【社会科】「店ではたらく人」の学習で地域のお客さんがたくさん来るひみつをさがすこととら通して店のサービスや地域貢献の考えを知り、関連させた。 【国語科】「言葉でつたえ合う」の「さまざまなつたえ方」で手話や点字、記号の意味を学習した。 【国語科】「パラリンピックが目指すもの」の学習を通して、体の不自由ないろいろな人に気づき、また文章の要約の仕方を活用した。 【国語科】「ローマ字」の学習で学んだことを、ローマ字のコンピューターへの入力に活用した。 【社会科】「店ではたらく人」の学習での「かべ新聞にまとめ」を関連させた。

〈まとめ・表現〉18 時間 ・グループで調べたこと，調べてみて分かったこと，感じたことを新聞にまとめる。 ・地域の一員として，自分たちにできることを考え，標語を作る。 ・参観日に保護者やほかのグループの児童に新聞・標語を発表する。	【国語科】「外国のことをしょうかいしよう」において，話の組み立てや話し方の工夫を学習に活用した。 【社会科】「くらしをまもる」の学習での「自分たちでもできること」を関連させ，自分の考えをまとめた標語作りを活用した。
--	---

【児童生徒の感想・振り返り】	
・バリアフリーは，体の不自由な方にとっては命のようなものであり，安心してくらするために必要なものであることに気付いた。 ・これからもバリアフリーについて調べていきたいし，もっとユニバーサルデザインを探してみたい。 ・自分たちもバリアフリーに助けられている。バリアフリーがない時に困っている人がいたら，直接自分が助けたいと思う。 ・盲導犬に出会ってかわいくて声をかけたくなくても，気が散らないように我慢しようと思う。 ・けがなどで誰がいつ車いすに乗るかわからないから，身近にいたら手助けしたい。 ・困っている人を助けるのは勇気がいるけど，勇気を出して，声をかけられるようになりたい。 ・これから自分はお年よりに親切にしてあげること，人にやさしく接するようにすること，やさしく手伝ってあげることががんばりたい。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・身近な学校内や店内，登下校の中から人にやさしい設備やサポートを自ら探した。	・なぜそこにあるかなど，理由を考えることにより，地域にはいろいろな人が暮らしていることに気付いた。
・社会科の「店ではたらく人」をまとめる新聞作りでまとめ方や発表の仕方を練習した。	・班の中で友達の考えを聞きながら，より分かりやすいまとめ方や発表の仕方を考え，工夫する表現になるように活動することができた。
・初めて，パソコンでインターネットの情報を得た。	・目的をもって，一人一人が積極的に調べ，多くの情報から自分の考えを深め，自分のできることのヒントを得ることができた。
・参観日に保護者へ発表した。	・相手意識をもって活動することにより，意欲的に取り組むことができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・今年度はコロナ禍の影響で出来なかったが，安心してくらするまちづくりについて学ぶため，直接的な活動を経験させる必要性を感じた。福祉施設（あいプラザ）や市民図書館，市民センター，駅などへ直接行き，調べる活動，また，調べたことを各施設で直接インタビューし，さらに探究し深めていく活動ができればより身近に感じ，より学習を深めることができると考える。	

単元名

ずっと住み続けたい阿品台に！

【関連のあるSDGsの目標】



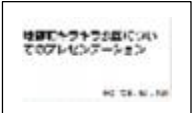
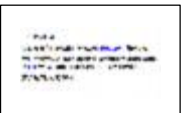
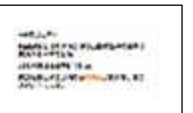
【単元の目標】

自分たちが住んでいる阿品台に関心を持ち、町のシンボルとしてのよりよい阿品台公園について考える。公園のよさや課題をアンケートなどで調べる。その結果を年代別、性別に分類・分析する。その後、よりよい地域の未来を想像し、自分たちができそうな課題を見出し、改善する取組を考え、実践する。

【連携諸機関・人物】

地域ボランティアの方
全校児童の保護者
市民センター
廿日市西高等学校
阿品台中学校

◆学習活動の実際（全70時間）

学習活動	他教科等との関連
〈 課題の設定 〉 ・地域の人からの話を聞いて、阿品台公園の未来について考える。 地域の人の思いを聞いて課題を考えよう。 〈 情報の収集 〉 ・地域の人たちから、「よさ」と「課題」を調べる方法について考える。 ・アンケートを実施することに決める。 ・現地調査に行き、公園の現状と課題を探る。 ・いろいろなアンケートから質問の仕方などを調べ、相手意識を持ち、アンケートを作成する。 ・アンケートの実施方法を考える。 ・同じ廿日市市にある公園と比較して考える。 ・タブレットを活用し、グループごとに課題を追究する。 阿品公園について考えよう。 ・グループに分かれて阿品公園の課題についてプレゼンを行う。         〈 整理・分析 〉 ・多角的・多面的に阿品台公園について調べる。 ・アンケート結果を年代別・性別に分類する。 ・思考ツール「Xチャート」を活用し、「人」「もの」「金（費用）」などの視点で、課題を分析する。 ・全体的な課題と年代別の課題を比較し、地域の課題を把握する。 ・課題をもとに、地域の明るい未来を想像する。	【国語】 「資料を生かして呼びかけよう」で学んだ効果的な資料や写真の提示の仕方を生かしてポスターをかく。 【国語】 町の未来をえがこう 「町の幸福論～コミュニティデザインを考える」で学んだ「バックキャスト」を活用して、地域の明るい未来を想像する。 【算数】 「資料の調べ方」散らばりの様子を表した表やグラフを活用する。

未来の阿品公園プロジェクトX

阿品台公園の10年後50年後の未来を考えよう。

- ・グループに分かれ、リーダーを中心に、具体的な活動計画を立てる。
- ・未来の地域の公園に向けて、自分たちができる取組を考える。



【算数】
「およその形と大きさ」公園の面積を求め
る。

〈 まとめ・表現 〉

- ・グーグルスウィートのスライドを活用し班ごとに未来の阿品公園について提案する。

2月19日（金）
未来の阿品台公園を考えよう！
プロジェクトX
最先端のタブレットで子供たちがプレゼンを行います！
審査員大募集！
最先端のタブレットでYOUが審査します！

2月19日（金）の7時時間目に小学校最後の授業参観を行います。総合的な学習の時間で児童が「未来の阿品公園プロジェクトX」を考えプレゼンします。

昨年度導入された一人1台のタブレットを活用しプレゼンを作成しました。子供たちはあっという間にタブレットの使い方をマスターし見事なスライドが次々にできあがりました。

ICTの先生に高校生なみのプレゼンだと大絶賛されました。今までの参観日では見ることでできなかった子供たちの姿を見ることができず。是非見に来てください。

また、子供たちの日頃使っているタブレットを保護者の方にも使っていただき、各グループの発表の審査を行っていただく予定です。タブレットのアンケート機能で、発表後瞬時にグラフ化できるシステムを使い、最先端の審査を体験してみてください！！今話題のICT教育を垣間見ることができるかと思います。

発表順は子供たちの希望によりくじ引きで決定することになっています。



総合「プレゼンテーション」



未来の阿品公園を考えよう！プロジェクトX

大成功！

2月19日（金）に小学校最後の授業参観が終わりました。子供たちのプレゼン力に驚かれたことと思います。

今から求められる力の一つとして「自己表現」があります。新しい高校入試でも「自己表現」が課せられるようになります。中学校に進学したときに、今の力を十二分に発揮し、自分の思いや考えを堂々と伝えることができる人になってほしいと願っています。

保護者の方には最後の参観日で子供たちの逞しく賢く成長した姿を見ていただき心から感謝しております。また、タブレットでのアンケートも体験いただいたことでICT教育を知るきっかけになったのではないかと思います。



参観日後保護者からの感想

- ・プレゼンでは堂々と発表していて鍛えられると、こうも成長するのだと感じられ、受け身ではない授業がこんなに生き生きとした内容になるのだと驚きました。私も小学生からやり直したい・・・！息子たちがいまから自由に羽ばたいていくのをうらやましく思うのと同時に見守っていきたいと思います。
- ・最後の参観日なんとも見応えがありました。子供たちの一生懸命相手に伝えようとする姿がとても感動的でした。
- ・プレゼン力がアップして、あの手この手で攻めてくるので親もタジタジになってしまいます。

【社会】
「世界の未来と日本の役割」持続可能な社会を目指して

【児童生徒の感想・振り返り】	
課題発見力 ・阿品公園の課題を見つけるときにプレゼンのコンセプトに沿った課題を見つけることができた。	
社会参画 ・そもそも阿品公園をよくしようと考えたのは、よりよい地域にしたいと思ったからだ。町おこしができるような提案ができた。	
向上心 ・振り返りを通して自分は友達と協力するのではなく、一人で引っ張っていかうとするタイプであることに気づき改善していかなければならないと感じ改善しようと努力した。	
自己有用感 ・今まで一人で進めていこうとしていたが、今では男女関係なく話せるようになった。 ・意見の違う人や対立する意見も認めることができるようになった。	
まとめ・表現 ・わかりやすいプレゼンや相手を説得できる説明ができるようになった。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・児童一人一人が、地域の課題を把握するためにアンケートを作成し、実施する活動を行った。	・家族や地域の方々に進んでお願いすることで、その後の集計や分析への意欲をもつことができた。 【向上心】【自己有用感】
・国語科と関連させて、地域の未来をイメージさせ、そのために必要な取組を考える活動を行った。	・スライドを作成することでイメージを視覚化することができた。 ・多様な課題の中から児童が目指すまちづくりを共有し、具体的な取組を考えることができた。 【課題解決力】
・社会科の「持続可能な社会を目指して」と関連させた。	・持続可能な社会を目指すことは難しいことではなく、自分たちの生活の中で課題を発見し解決していくことだと児童自らが気付くことができた。 ・「だれひとり取り残さない」という理念のもとに17の目標が設定されていることを理解し、持続可能な社会を実現するために地域の人々と協力して社会参画しようとする意識が芽生えた。 【向上心】【自己有用感】
【今後に向けた「改善点」】	
・地域の方々と連携しながら取り組む計画を立てていたが、一部の方との交流に留まり地域全体を巻き込み実施することができなかった。より多くの地域の方々や市役所の方々と一緒に考え、活動することができれば、より地域の方々の願いに添った活動を展開することができる。	

単元名

「阿西小のすてき」 ～学校のすごいところを見つけよう～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】自分達の学校のことやたくさんの人々によって学校が支えられていることに気づき、学校をより良くするために自分達ができることを実践していこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

給食センター・栄養教諭

◆学習活動の実際（全70時間）

学習活動	他教科等との関連
〈課題設定〉 阿品台西小学校の良さをみんなに教えてあげよう！ 〈阿品台西小学校について調べよう〉 - 校章・校歌・シンボルツリー・校長室について調べる。 - 学校の良さについてインタビューをする。（対象：先生） デジタルカメラ・タブレットのカメラ機能・パソコンの使い方を学ぶ。 〈阿品台西小学校のことを2年生に教えてあげよう〉 - 調べたこと・聞いたことを模造紙にまとめる。 2年生に、阿品台西小学校の良さを伝える。 〈学校を支えてくれている人たちについて考えよう〉 - 給食センター ・ 地域の人 ・ 業者の人 - おうちの人 ・ 学習支援ボランティアの人 〈美味しい給食の秘密を調べよう〉 - 栄養教諭に給食センターについて教えてもらう。 栄養面・安全面・工夫・悲しいこと・うれしいことなど。 - 日頃の給食について考える。→食器の返し方、残飯など。 〈自分達ができることを考える〉 - 学校をよりよくしていくために、取り組むことができることについて考える。 - 実行に向けた計画を立てる。 〈他学年への呼びかけ〉 - 給食の残飯を減らすための呼びかけ。 - トイレのスリッパをそろえるための呼びかけ。 - 隅々まできれいに掃除をするための呼びかけ。 〈お世話になった人へ感謝の気持ちを伝えよう〉 - 手紙を書く。	インタビュー  2年生に発表  【国語】「メモを取りながら話を聞こう」において「メモを取りながら質問の答えを聞く活動」を「インタビューする活動」に関連付けた。 【国語】「書き手の工夫を考えよう『ほけんだより』を読みくらべよう」において「2つの文章を比べて、どちらの文章がいか理由をはっきりさせて自分の考えを書き、交流する活動」を「模造紙や原稿用紙にまとめる活動」に関連付けた。 【道徳】「いつもありがとう」において、「安心で安全な生活ができるのは、自分たちを守ってくれる人がいるおかげであることに気づき、感謝の気持ちをもって接する」ことを「学校を支えている人への感謝の気持ち」につなげた。 【学活】「ありがとうをつたえよう」の「手紙を書いて友だちに感謝の気持ちを伝える活動」を「給食センターの方やお世話になっている人への感謝の気持ちを伝える活動」に関連付けた。 【学活】「好ききらいなくたべよう」の「食事の大切さを知り、よりよい食生活について理解する活動」を「残飯を減らす呼びかけの活動」に関連付けた。

〈すてきな阿品台西小学校パンフレットの作成〉 ・調べたこと・学んだことをパンフレットにまとめる。 ・パンフレットにより、保護者の方・他学年に伝える。 〈振り返り〉 ・学習の振り返りを行い、これからの自己の生き方について考える。	
--	--

【児童生徒の感想・振り返り】	
・いつも名札についている校章に意味があったことを初めて知った。 ・今まであまり考えないで歌っていた校歌に学校を思う気持ちが込められていることに気付いた。これからは学校のことを思いながら歌っていきたい。 ・自分達が毎日安全に生活できているのは、学校の先生・地域の人・家の人達などが支えてくれているからだ気付いた。 ・自分の学校について、初めて知ったことがたくさんあった。これから掃除を丁寧にして、大切にしていきたい。 ・自分達の健康を考えて給食が作られていることが分かった。好き嫌いをせずしっかり食べたい。また、これからは、農家の人・漁師さん・給食センターの人など、たくさんの人に感謝をして食べたい。 ・給食の食べ残しが1日平均50kg、多い日は100kgになることを知り驚いた。もったいないので、食べ残しを減らしていかないといけない。 ・他の学年に発表して楽しかった。もっと、いろいろな学年に学校のことを教えてあげたい。 ・日頃お世話になっている見守り隊の人たちへも、感謝の気持ちを伝えたい。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・身近な学校をテーマに選び、改めて学校探検をしたり、先生にインタビューをしたりする活動を設定し、児童の興味関心を引き出した。	・安心して安全な学校生活が送れているのは、たくさんの人々に支えられているからだということに気づき、感謝の気持ちをもつことができた。
・国語科「メモを取りながら話を聞こう」の学習と関連付け、効果的なメモの取り方や質問の仕方について考えさせた。	・インタビューでは気持ちのよい挨拶をする、時間をかけないためにもキーワードでメモを取る、質問をあらかじめ考えておく等が分かり、他の教科でも活用する姿が見られた。
・栄養教諭に給食センターについて教えてもらう活動を設定し、給食について考えさせた。また、学活の「好き嫌いなく食べよう」の学習も同じ時期に栄養教諭を招いて行った。	・自分たちの栄養のために給食はいろいろ工夫されていることに気づき、給食を残さず食べたいという気持ちをもつことができた。実際に、野菜が苦手に残っていた児童が、頑張って食べている姿が見られるようになった。
・自分達が学校をより良くしていくために出来ることを考えさせ、他学年に呼びかけを行った。	・来年4年生になり、低学年のお手本にならないといけないという思いをもち、真剣に他学年に呼びかける姿が見られた。自分たちもスリッパをそろえたり、掃除を丁寧にしたりする児童が増えた。
【今後に向けた「改善点」】	
・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の方々との交流ができなかった。学校を支えてくださっている地域の方（学習支援ボランティア、見守り隊等）にも、学校の良さや改善すべきところを聞いたり、感謝の気持ちを伝えたりできたら良かった。 ・校章・校歌については、作者や由来、意味などを明記したものがなく、調べるのに苦労した。シンボルツリーの「双ヶヤキ」については絵本にもなっていたので、子ども達は興味をもって調べることができた。今後、校章や校歌についても、学校のどこかに掲示するなどして意識付けるとよいと思う。 ・給食の残飯の量が多く、とてももったいない。残飯の量を減らす指導を廿日市市全体で行う必要があるのではないか。	

単元名

大好き串戸 ー串戸のすてきな場所を調べようー

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

自分が暮らす地域の魅力を調べる活動を通して、地域の魅力を理解し、課題解決に向けて、情報を整理し、考えとともに、地域の一人として、地域の人や場所を大切にするために自分自身にできることを見付け、発信できるようにする。

【連携諸機関・人物】

市役所
(学校教育課・地域政策課)
消防署

◆学習活動の実際（全36時間）

学習活動	他教科等との関連
〈串戸マップクイズに挑戦！〉 ・「串戸マップ」で、四角で隠れた場所について周りの地図情報から考える。 →見たことはあるけれどどんな場所かよく分からないなあ。知りたいなあ。   〈課題の設定〉 地域の魅力的な場所を見付け、そこについて自分の住む地域とどのようなかわりがあるのだろうか。 〈調べたいことを考える〉 ・調べる場所の担当を決め、「調べてみたいこと」や「知りたいこと」をまとめる。 〈知りたい場所について情報収集する〉 ・パソコンや本を活用して、担当する場所について調べ、ワークシートにまとめる。 ・担当する場所に、調べ学習で分からなかった事を質問するための手紙を書く。 〈調べた情報を整理し、まとめる〉 ・取材活動で分かったことを整理し、どのようにまとめたら地域の魅力が伝わるのか考える。 ・調べた内容をグループごとに模造紙にまとめる。 ・どのような方法で発表したら、お家の人に地域の魅力が伝わるかを考え、発表の準備をする。  〈おうちの方へ発表する〉 ・学習報告会で学習してきたことを発表し、地域の魅力について伝える。 〈振り返り〉 ・これまでの学習や地域の魅力について振り返る。 	【国語】「案内の手紙を書こう」において、「相手に聞く必要があることを落とさずに書くとともに、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりする学習」を「手紙を書く活動」に関連付けた。 【国語】「書き手のくふうを考えよう」において、「書き手の目的や意図に照らして文章を工夫する学習」を「模造紙にまとめる活動」に関連付けた。

【児童生徒の感想・振り返り】	
・ずっと住んでいる串戸のことでも、まだまだ知らないことがたくさんあるんだということに気付くことができた。(串戸マップクイズ) ・自分たちが知りたい場所について、たくさん調べた中から何を一番おうちの人に伝えたいか考えた。考える中で、どの場所も自分たちの生活にかかせない場所だということが分かった。(発表の準備) ・おうちの人に発表するときには台本や発表方法を考えることが難しかったけれど、今まで取り組んできた発表方法の中でどの方法が一番串戸の魅力が伝わるかを考えることができた。(発表の準備) ・総合的な学習の時間を通して、普段の登下校中も歩いている道や建物を見ながら歩くようになった。調べたことで、自分たちが住んでいる串戸のことがさらに好きになった。(学習の振り返り)	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・「串戸マップクイズ」を導入で設定し、児童から課題を引き出した。	・「ずっと住んできた地域のことなのに知らないことがたくさんある」ということに気づき、学習意欲が高まった。
・国語科「書き手のくふうを考えよう」の学習と関連付け、書き手の目的や意図に照らして文章を工夫させた。	・見出しを使ったり、図や表を用いたりするなど、「串戸のすてきな場所」が読み手に分かりやすく伝わるようにまとめることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・今年度は新型コロナウイルスの影響で、町探検や、地域の方へのインタビューを行うことができず、パソコンや本で調べるだけでは情報が少なかった。直接その場所へ行ったり、交流したりすることで、学習の質を上げていきたい。 ・「もっと知りたい、調べたい」と思えるように活動を仕組み、相手意識やゴールの姿を明確にしながら学習に取り組ませることで、自分たちが住む串戸に愛着と誇りをもつことができるようにする。	

単元名

「みんなのビオトープ」 ～みんなのビオトープを大切にしよう～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

ビオトープの生き物について調べることや専門家のお話を聞くこと、ビオトープの会の方との活動を通して、生き物には、食べたり、食べられたりする関係があることを知り、それぞれの生き物が大切な命であることや、ビオトープを守る人々の工夫に気づき、みんなのビオトープを大切にしていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

地域住民の方（ビオトープの会）、生き物博士（講師）

◆学習活動の実際（全46時間）

学習活動	他教科等との関連
〈ビオトープの生き物に興味を持つ〉 ・カブトムシの幼虫を観察する。 ・ビオトープに植えたキャベツの葉についているチョウの幼虫を観察する。 〈課題の設定〉 ビオトープの生き物について調べたり、育てたりして、生き物の不思議を見つけよう。 〈ビオトープの生き物に関する情報収集〉 ・サツマイモの苗を植える。 ・ビオトープの生き物を採集し、調べる。 ・生態系のお話を聞く。 ・カブトムシを育てたり、カブトムシ博士のお話を聞いたりする。 ・ビオトープの生き物を採集し、昆虫の不思議を見つけ、調べる。 ・トンボ博士のお話を聞く。 〈ビオトープのことでみんなに伝えたいことを考える〉 ・ビオトープの生き物から学んだことをどのように伝えるか考える。 〈ビオトープの生き物から学んだことをみんなに伝える〉 ・ビオトープの生き物から学んだことをグループで選んだ方法でまとめ、お家の方やビオトープの会の方に向けて発表する。 〈ビオトープの会の方に感謝の思いを伝える〉 ・ビオトープの会の方を招待して、感謝の会を開く。 〈振り返り〉 ・学習の振り返りを行い、これからの自己の生き方について考える。	【理科】 理科「チョウを育てよう」において、チョウを卵から育てたり、カブトムシの幼虫を育てたりして、昆虫が成長する様子を観察した。「こん虫を調べよう」で、トンボやバッタなど観察し、こん虫の体のつくりについて学んだ。 【国語】 国語科「グループで話し合おう」において、感謝の会の内容や役割分担を司会の進行にそってグループや学級で話し合って決めた。また、「案内の手紙を書こう」において、案内する時に必要なことを考え、感謝の会への案内の手紙を書いた。

【児童生徒の感想・振り返り】	
(ビオトープの会の方の活動を知ってこれからどうしていきたいか) ・生き物の命を守りたい。 ・生き物を傷つけない。 ・ビオトープの植物に水やりをして大切にしたい。 ・環境を守り生き物が住みやすい地域にしたい。 ・ビオトープをきれいにしたい。 ・自分を大切に、すべての命を大切にしたい。 (地域・地域の人に関わる振り返り) ・地域のボランティア活動をしたい。 ・地域の人と生き物を育てたい。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	 【児童生徒の変容】
・お家の方やビオトープの会の方に向けて調べてまとめたことを発表する。	・話を聞く機会が多く、メモをしっかりとれるようになってきた。 ・たくさん調べられるようになり、生き物について物知りになったと実感していた。 ・自然の大切さ、命の大切さを感じる児童が増えた。 ・児童が発表方法を考え、準備、練習をする際、自分たちで活動を計画し、協力して活動することができるようになってきた。
【今後に向けた「改善点」】	
・次学年以降において、ビオトープについて児童が学んだこと、感じたことを生かせる取組をつなげていく。	

単元名

宮園の未来のために ～宮園に住む私達からの提案～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

- 自分たちの取組について様々なアイディアを出し、主体的に街づくりに参画しようとする態度を育てる。
- 必要な情報と目的を関連付け、町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織の思いや願いなど、自分たちの根拠となる事実や事例を挙げて多面的に考える力を育てる。
- 社会の一員として活動することの大切さや喜びを感じ、宮園に対する見方を広げるとともに、自分自身の新たな一面に気付く力を育てる。

【連携諸機関・人物】

保護者・地域の方
(ビオトープの会・まるごと宮園・ふるサポ・宮園児童館・宮園保育園・見守り隊)

学習活動の実際（全41時間）

学習活動	他教科等との関連
〈課題の設定〉 「宮園をより良くするために自分たちにできることを考え、保護者・地域の方に自分たちの思いを伝える」 ○学習のゴールイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに、学習計画を立てる。 ・学習課題を「宮園をより良くするために自分たちにできることを考え、自分たちの思いを伝える」として設定する。 ・宮園に住みやすさや課題を話し合い、どのような町にしたいかを考える。 〈情報収集〉 ○宮園の特徴を調べる。 ・市民センターや学校のホームページ、広報などから町の情勢や取組についての情報を集める。 ・市民センター長、宮園地区コミュニティ会長の話を聞く。 〈整理・分析〉 ○宮園について集めた情報を整理・分析する。 ・宮園の現状について、分かったことを新聞に表す。 〈まとめ・創造〉 ○宮園をよりよくするためのイベントを考える。 ・目的意識・相手意識を持って考える。 ・今の宮園にない取組を考える。 （情報収集） ○自分たちが考えたイベントのちらしを作る準備をする。 ・様々なイベントちらしを集める。（現物、ホームページ） （整理・分析） ○自分たちが考えたイベントのちらしを作る。	【国語】国語科「町の幸福論」でプレゼンテーションに向けた情報収集の方法を学んだ。

・ ちらしをもとに、目的や内容を整理する。 ・ 整理した目的や内容からプレゼンテーションを行う原稿を作る。 (まとめ・創造) ○プレゼンテーションを行う。 ・ グループ同士で自分たちが実現したい町づくりについて意見を伝え合う。 ・ 校長先生に聞いてもらい、実現したいイベントを選んでもらう。 (振り返り) ○単元を振り返り、街づくりのためにこれから必要なことや大切にしたいことを振り返る。	
【児童生徒の感想・振り返り】	
・ 宮園地区コミュニティでは、子ども達のことを考えて様々なイベントを計画してくれているのでありがたい。 ・ 自治会に入って協力してくれる人が他の地区より多く、支えてもらっているんだなと感じた。 ・ 宮園は、色々な人が協力したり、助け合ったりすることで成り立っていることが分かった。 ・ 校長先生がおられたので、とても緊張した。だけど、優秀賞に選んでもらえたのでうれしかった。	

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	 【児童生徒の変容】
・ グループごとに、宮園地区がさらに活性化するようなイベントを考えさせ、プレゼンテーションを行った。	・ 目的意識や相手意識が明確になり学習意欲を喚起・継続することができた。 ・ 今後の生き方として、宮園地区に住む人たちに何か役に立つことをしたいという気持ちが芽生えた。
【今後に向けた「改善点」】	
・ 提案で終わることなく、宮園地区のために行動できるよう中学校とも連携していく。(あいさつ運動、清掃活動など)	

単元名

みんなで命を守り隊

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

自分たちの町に起きる可能性のある土砂災害について知り、災害時の対応や避難所での生活について調べ、発信する活動を通して、自分や家族の命を守るためにできることをしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

地域政策課 中田様
四季が丘市民センター

◆学習活動の実際（全30時間）

学習活動	他教科等との関連
〈ハザードマップを見て、地域で起こり得る災害について知る〉 ・ハザードマップをタブレットで確認し、自分の家がある周辺は危険か安全か考えた。 〈土砂災害の恐ろしさを再確認する〉 ・西日本豪雨災害や九州豪雨などの映像を見て、被害状況を知り、命を守るために何が必要か考えた。 ・土砂災害の被害や前兆（土砂崩れ、土石流、地滑り）について調べた。 〈課題の設定〉自分と家族の命を守るためにできることを考えよう。 〈マイ・タイムラインを作り、災害時の行動をイメージする〉（家庭学習も含む。） ・安全に避難するために必要なことを家族と一緒に考えた。 →誰に連絡するのか。 →どこに逃げるか。 →誰が何を用意するのか。 →何を持っていくか。 ・集めた情報をもとにマイ・タイムラインを作成した。	【社会】 「自然災害からくらしを守る」という学習を通して、教科書に掲載されている資料や体験談を活用し、調べ学習に関連づけた。
 災害発生時の 自分と家族の行動を 詳しく考えた。	
〈マイ・タイムラインをもとに次の課題を見つける〉 ・「避難するまでは、イメージできたけど、その後はどんな生活が待っているだろうか。」と問いかけ、もっと知りたいことを出し合う。 〈新しく見つけた避難に関する疑問を追及する〉 →水、食料、備蓄品、避難所での生活、避難所での過ごし方（ペット、障害のある人）	

・それぞれの疑問について図書館やインターネット、インタビューを用いて調べる。 ・市の地域政策課の方に来ていただき、廿日市市の防災の取組についての話を聞く。 〈調べたことを発信する〉 ・土砂災害チーム，食料チーム，一人で避難チームなどの7チームに分かれ，調べたことを保護者に発信する。 〈保護者と学年児童へむけて発表〉 〈ポスターにまとめて発表〉   〈活動を振り返る〉 ・今後の生活にいかすことができるよう，学習を振り返る。	
---	--

【児童生徒の感想・振り返り】	
・四季が丘は土砂災害が心配だったけど，ほかの災害も気を付けて，対策をしたいと思った。 ・家族でマイ・タイムラインについてももう少しちゃんと話しておきたい。そして自分の命や家族の命を守っていききたいと思った。 ・いろいろなチームの発表を聞いて，本当に災害が起こった時に何をしたらいいのかが分かった。災害が起きると焦ってしまうこともあるから，本当の災害が起きる前に備えていきたいと思った。 ・調べるのは大変だったけど，自分たちの町を守るためにすべきことが分かった。他の地域や広島県全土に目を向けて，もっと調べたいと思った。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・取材の時にはテーマを決めず，全員が全てのテーマについて調べ，その後テーマごとにグループ学習をしたこと。	・何をすればいいのか，困る児童がいなかった。テーマを決めるときに，本当に追究したいことを選ぶことができた。
・マイ・タイムラインを活用する。	・時系列に沿って自分と家族の具体的な避難方法や準備物をイメージすることができた。
・市の地域政策課の方に来ていただき，話を聞いたこと。	・現在の四季が丘にある備蓄品，備蓄品の量，保管場所を知ることができ，そのことから，自分たちで用意しなければいけないものを考えることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・マイ・タイムラインの作成の時など，もっと家庭を巻き込んで考えることができれば，子どもも大人もさらに実生活に役立つ学習になったと思う。 ・他学年や地域へ発信することができなかったため，オンライン発表など，発表の仕方を工夫できたらよかった。	

単元名

「竹炭の魅力を広めよう」

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

友和地域で受け継がれてきた竹炭作りを地域の伝統産業として発信することを通して、中山間地域である校区の実態を知り、住民の一人として地域の発展を願い、地域の振興に積極的に参画していこうとする態度を養う。

【連携諸機関・人物】

友和地区コミュニティ推進協議会
廿日市市教育委員会
友和小学校 PTA
廿日市シティプロモーション室
(株)ジブンノオト
(株)博報堂

◆学習活動の実際（全50時間）

学習活動	他教科等との関連
〈地域の方からの依頼〉 ・本校第5学年が例年行っている竹炭作りをすることを知る。 ・友和地区コミュニティ推進協議会長から、竹炭の生産量が落ち込んでいることや後継者不足が懸念されていることを聞き、「竹炭のよさを伝えることは友和のよさを伝えることである」と共通認識をもつ。 〈効果効能の実証実験と結果の整理〉 ・実験を通して、竹炭の効果効能を確かめる。【消臭効果・除湿効果・濾過効果・抗菌効果・ミネラル成分作用等】 〈販売方法の見直し〉 問題点：コロナ禍のため、例年のように直接販売することが難しい。 →対応策：学校行事の際に、職員室前などに無人販売所を設置する。 問題点：コロナ禍のため、例年のように声をかけるなどの販売促進活動ができない。 →対応策：実験を通して実証した効果や実際に体験した効能を伝えるポスターを作成し、無人販売所などに掲示する。 〈竹炭作りと販売〉 ・竹の加工 → 窯入れ → 窯出し → 選別 → 袋詰め ・無人販売所を設置し、販売を開始する。 〈振り返り〉 ・学習の振り返りを行い、竹炭作りは友和のよさを広めることになったかを問う。 〈課題の再設定〉 ・竹炭作り体験をして、校内で販売するだけでは、友和のよさを地域外の人に知ってもらうことにはならないという振り返りから、課題を再設定する。 〈行政からの依頼〉 ・廿日市シティプロモーション室による講義を通して、廿日市市は転入超過であるが、友和などの中山間地域は人口が減少し、高齢化が進んでいることを理解する。担当者の方から友和小学校の竹炭で友和と廿日市をPRしてほしいと依頼を受ける。 〈PR方法と効果の検証〉 ・「どこで」「だれに」「どんな方法で」「どんな効果があるか」などの観点で、個人の案を10の方法に分類したり統合したりする。 〈プレゼン〉 ・10のグループに分かれ、生産者や販売者、行政担当者や専門家に対するプレゼンを行う。 【YouTubeで世界にPR】 【友和小学校の竹炭を廿日市のゆめタウンで売る！！】 【友和小学校の竹炭をニュースに出す！！】 【友和小学校の竹炭をはつこいマーケットで売る！】 【友和の竹炭をふるさと寄付金サイトでプレゼント】 【友和小学校の竹炭をマツダスタジアムで売る】 【ラジオで日本中にアピール】 【宮島サービスエリアで竹炭をPR】 【新聞で広めよう 私たちの竹炭】 【友和の竹炭を作り学んで大きく広める】 〈振り返り〉 ・単元を振り返って、「身に付いたと思う力」と「身に付けなければならないと思う力」を問う。	【道徳】 「和太鼓調べ」より 「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつということ」を導入時の動機付けに関連付けた。 【理科】 「物のとけ方」より 「物が水に溶ける量は水の温度や量、溶けるものによって違うこと」での経験を想起させ、実証実験を行わせた。 【家庭】 「食べて元気！ご飯とみそ汁」より、「伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできること」での調理実習と関連付け、実証実験を行わせた。 【国語】 「和の文化について調べよう」より、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」と関連させ、伝えたいことを列挙し、優先順位を考えながら取捨選択したり提示する順番を変えたりし、作成する資料に反映させた。

【児童の感想・振り返り】	
この単元を通して身に付いたと思う力 ○大人とかかわる力 ○思いを伝える力 ○自分の言葉で説明する力 ○進んでやる力・主体性・行動力 ○作業を分担する力・進んで協力する態度 ○誰に協力してもらうかを考える力 ○質問にすぐに答える力	この単元を通して身に付けなければいけないと思う力 △質問に対して、きちんと答える力 △人前で恥ずかしがらない態度・堂々とした態度 △思いを込めて原稿を読む力 △考える力・質問の見通しをもつ力・アイデア力 △表現力・人に正しく伝える力 △主体性・自分で判断して行動する力 △目的に向かって協力する態度
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童の変容】
・探究の過程を2回取り入れたこと	・児童は、初回の探究の過程で得た経験や改善点をもとに、2回目の探究の過程では、「地域外に竹炭を広める」という明確な目標を念頭に置き、探究的な見方・考え方を働かせ、学習活動を行うことができた。
・学習の動機付けに、外部講師からの依頼を仕組んだこと	・児童は、初回の探究の過程では、地域の生産者からの依頼を受け、意欲的に活動することができた。2回目の探究の過程では行政からの依頼を受け、新たな視点で教材をとらえ、さらに意欲を高めることができた。
・児童に ICT 機器を自由に活用させたこと	・児童は、初回の探究では、販売のためのポスターやチラシ、商品に添えるメッセージなどで学習内容を表現した。2回目の探究では、タブレットとキーボード、電子黒板を児童に開放することで、プレゼン資料を作成するという表現活動に主体的に取り組むことができた。
【今後に向けた「改善点」】	
○発展的な単元計画の作成 本単元では、「竹炭を学ぶ」ことではなく、「竹炭で学ぶ」ことを意識した。地域の理解や協力、児童の発達段階等を踏まえると、今後も本校では、第5学年に「竹炭」という学習対象を位置付けることが望ましい。しかし、前例を踏襲するだけでは、児童にとって必要感のある探究的な学習にはならない。児童の資質・能力を連続的かつ発展的に向上させることを意図するならば、学習対象に関する新しい活動を仕組んだり学習対象を異なる角度から捉え直したりするなど、目標を実現するにふさわしい探究課題を再設定するべきである。 例えば、今年度は、竹炭の効果効能に着目させ、実証実験や体験をもとに、地域の外に広めていくための学習活動を行った。来年度は、これらを引き継ぎ、実現させることを目的に思考力・判断力・表現力を高めていくこともできる。また視点を変え、後継者不足に悩む地域生産者の実態に着目させ、竹炭作りを担うための人づくりを目的に育成を目指す資質・能力を焦点化していくこともできる。 前年度までの積み上げを生かしつつ、社会的ニーズや地域の実態が反映された発展的な単元計画が作成されることで、本校では来年度も「竹炭で学ぶ」ことが可能となると考える。 ○資質・能力の向上を促すカリキュラム・マネジメント 本単元では、主として2回目の探究の過程において、地域だけでなく民間業者や行政の方々々と連携させていただいた。社会的な問題の解決を目指した活動では、児童が世の中の仕組みをある程度理解していなければ、諸課題や改善案の共有は難しい。例えば「物を販売するということ」の仕組みを理解していなければ、販売者を引き付ける提案にはならない。「なぜそこで竹炭を売なのか」「だれに竹炭を売なのか」といった本質的な質問に的確に回答できない児童もいた。また、「移住すること」の社会的な意味を理解していなければ、現実的な提案にはならない。「竹炭があるから住みたくなるだろう」という思考から脱することができず、周囲の助言を改善案に反映させることができない場面もあった。 児童が社会的な問題の解決を目指した探究的な活動で力を発揮するならば、当然ながら生活の中に存在する事象（問題）に関心をもち、主体的に理解（解決）していこうとする態度が必要である。また私たちには、そのような態度を身に付けることのできる機会を、あらゆる教育活動の場面で、意図的に与えていくことが求められる。今後も「各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと」というカリキュラム・マネジメントの側面をより強く意識していきたいと考える。	

単元名

「津田の歴史をたずねよう」 ～津和野街道～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

地域の歴史に関心を持ち、郷土への愛着を持ちながら、よりよく課題を解決し、自分の考えをまとめ伝える資質や能力を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・山里くらぶ
- ・佐伯文化センター

◆学習活動の実際（全54時間）

学習活動	他教科等との関連
〈地域のよさや魅力について話し合う〉 ・400年以上前の史跡である「津和野街道」が地域にあることを知る。 ・津和野街道があまり認知されていないことから、自分たちが調べてまとめたものを発信することで、そのよさを伝え広めていくことを計画する。 津和野街道のよさを見つけ、伝え広めよう。 〈津和野街道に関する情報を収集する〉 ・パンフレットやインターネットサイトなどから情報を収集する。 ・津和野街道の歴史や街道内にある各スポットなど全体の大まかな情報を確認、整理する。 ・スポットごとにグループを作り、さらに詳しく情報収集する。 （重なり岩・観音堂・茶屋床・石畳・かご立て岩） 〈津和野街道を散策し情報を収集する〉 ・自分が調べたスポットについて現地で説明をする。 ・散策して気付いたことや感じたことをメモする。 ・後日ガイドの方（山里くらぶ）に来校していただき、詳しい話を聴いて理解を深める。 ※江戸時代に使われた古道を今も歩くことができるように整備したり、広める活動をしてくれたりする人がいることを知る。    	【社会】 「江戸幕府と政治の安定」において、「参勤交代の制度についての学習」を関連付け、なぜ津和野藩が津和野街道を通して廿日市市まで来る必要があったのか考えさせる。

〈情報をまとめる〉 ・ジグソー学習を用いて、それぞれのスポットごとにグループを作り、津和野街道全体のまとめを作成する。 (パンフレット、リーフレット、動画)  〈情報を発信する〉 ・作成したものを全校児童に見てもらう機会を設定する。 (給食時間を活用し動画視聴，図書室に紙媒体にまとめたパンフレットやリーフレットの設置) 〈学習を振り返る〉 ・地域に残る津和野街道やそれを守り伝え続ける人々の努力について自分の考えをまとめ、これからの自己の生き方について考える。	【国語】 「町の幸福論」において、「複数の資料を読み、必要な情報を関係付けながら、それらを目的に応じて活用する」学習を津和野街道についてまとめる活動に取り入れた。
--	---

【児童生徒の感想・振り返り】	
・津和野街道をきれいにしている人がいると知って、津和野街道だけではなく自然を大切に守っていかうと思う。 ・津和野街道を広め続けたり、積極的にボランティアなどに取り組んだりしていきたい。 ・自分の町にも歴史ある場所があることが分かった。これからこの学習で学んだ「調べる力」「まとめる力」を生かしていきたい。 ・身近に江戸時代から続く歴史あるものがあることを知った。これから大切にしていきたい。 ・津和野街道について調べたことが、社会の歴史の学習にもつながったことがすごかった。 ・調べるとき「どんな歴史があるんだろう。」と思いながら調べるととても楽しかった。もっと調べてみたい。 ・これからも津和野街道だけでなく、津田のよいところをたくさんの人に教えてあげたい。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・実際に津和野街道を歩きながら、それぞれのスポットで調べたことを発表する活動を設定し、児童の理解や更なる課題につなげた。 ・社会科「江戸幕府と政治の安定」の学習と関連付け、なぜ津和野街道を通る必要があったのかについて考えさせた。 ・国語科「町の幸福論」の学習と関連付け、構成や資料を活用の工夫について考えさせた。	・現地に行くことで、スポット以外の場所も歴史や自然にあふれていることに気付いた。調べたことを伝えたいという意欲につながった。 ・参勤交代で江戸に行くために、廿日市から船に乗って行っていたことに気づき、津和野街道の重要性を感じさせることができた。 ・グループ内で書き方を揃えて読みやすくしたり、スポットについて一番効果的に伝わる資料（写真）はどれか考えたりすることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・まとめたことを伝える場を設定したが、伝え広まったかが実感できなかったため、読んだり見たりした人からの感想を集める取組が必要であった。 ・それぞれスポットを決めたことで一つについて深く学んだり、グループでまとめる際に責任感を持って活動できたりするよさがあったが、全体を深く学ぶ場が必要であった。 ・インターネットや本からでは情報に限りがあり、ガイドの方から直接話を聴く機会を複数回取るほうが情報を得ることができると感じた。	

単元名

「SDGs」で吉和の未来を考える ～持続可能な吉和のまちづくりに向けて～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

＜令和3年度のゴールイメージ＞

吉和地域（企業）・保護者へ向け、持続可能な吉和のまちづくりに
ついて提案する。

＜令和2年度のゴールイメージ＞

SDGsについて理解し、総合的な学習の時間において、SDGsの視
点で考え、実行する。

【連携諸機関・人物】

- ・吉和地域の各事業所
- ・廿日市市社会福祉協議会
- ・ユニタール広島事務所
- ・廿日市市役所
- ・よしわ せせらぎ園
- ・老人クラブ 福寿会
- ・吉和福祉センター
- ・ほっと吉和 ・吉和漁協

◆学習活動の実際（全50～70時間）

学習活動

他教科等との関連

＜オリエンテーション＞小3～中3

- ・令和3年度及び今年度のゴールイメージを
全体で共有
- ・各学年の取組の共有



＜吉和小中学校でできること＞中3

- ・「SDGs」とは何？
- ・世界や日本の現状を知ろう
- ・ユニタール広島事務所との連携



世界におけるSDGsの現状はどんな状況ですか？

日本にはどんな課題がありますか？

- ・企業のSDGsの取組
- ・吉和小中学校でできることを下級生に提案しよう



オンラインで連携

【英語】

ユニタールとの連携において英語で学習したフェアトレードの内容との関連付けができた。

＜緑の豊かさを守ろう＞小3～小6

- ・吉和の動植物調査
廿日市市役所 観光政策課と連携



吉和の川はきれいなことがわかりました。

- ・地域の人から話を聞こう

吉和特有の植物はありますか？

吉和に生息している動植物

- ・吉和の動植物についてまとめ、説明しよう。



【理科】

吉和の動植物調査の際に、川の指標生物の学習を活かして生物を同定した。

単元名

大野のすてきをみつけよう ～ボランティアについて調べよう～



【単元の目標】

- 「誰もが安全に安心して生活できるまち」という1学期の振り返りからボランティアに関心をもつことを通し課題を設定することができる。
- 見学や体験活動を通して収集した情報を整理し発信することを通して、地域のよさを再認識し、人との関わりを大切にしていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

社会福祉協議会

◆学習活動の実際（全27時間）

学習活動	他教科等との関連
● 大野のすてきな人を見つけよう ・見守り隊や地域の花壇づくりの活動などから大野のボランティアについて関心をもつ。 ・社会福祉協議会の方の話を中心に、ボランティア活動について知る。 ・調べる内容や活動について課題をもつ。 ● ボランティアについて調べよう ・点字、手話、認知症サポーターに関するボランティアの体験活動を行い、実際に手話や点字を使用している方、ボランティアをしている方々の活動や思いについて話を聞き、手話・点字が、伝え方の一つであることを知る。 ・図書やインターネットでボランティア活動や働く犬などについての活動について調べる。 ● ボランティアについてまとめよう ・体験活動で分かったことを整理し、ボランティア活動の内容や関わっているすてきな人について集めた情報を整理する。 ・グループごとに伝えたい「活動内容」「ボランティアに関わる思い」についての表現方法を話し合い、準備や練習をする。 ・総合的な学習の時間に行った体験活動や調べたことをもとに自分の学びをリーフレットにまとめる。 ● すてきな人を伝え合おう ・作成したリーフレットを学級で発表し合い、学びを広げたり深めたりする。 ・お互いのリーフレットを読み合い、自分の活動や考えと比較し、より深く学ぶ。 ・活動を振り返り、大野のよさをつくるのは「地域で地域のために活動する人」であることを再認識するとともに、地域の一員である自分を意識し、自分にできることについて考える。	まとめ・表現上の関連 …「パラリンピックが 目指すもの」では、 文章の内容を要約し てリーフレットにし てまとめることが単 元に位置付けられて いる。国語科の内容 と、総合的な学習の 時間に学習したこと を、「人のやさしさ」 を主題の一つのリー フレットにまとめる こと。

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・大野には、自分からボランティアをやっている人がたくさんいらっしゃって、人のためにかつやくしている人もたくさんいらっしゃることがわかった。
- ・わたしも、ボランティアの人のように、やることをおぼえて、しょうがいをもつひとが幸せにらせるように、見守ってあげたいと思った。やさしい声で「お手伝いしましょうか。」といって助けてあげたいと思った。
- ・しょうがいをもっている人やおとしよりの人のえがおをみると、ボランティアの人はがんばろうと思うのかなと思った。この学習をもとに、わたしもやさしい気持ちを持ちたい。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・何を課題とすればよいのか具体例を用いた。さらに、子どもたちの考えを広げたりつなげたりして、自分で課題を見つけることができたという思いをもたせるようにした。	・地域の何について学習するのか、目的を明確にもてるようになり、ゲストティーチャーや地域の方に、自分から話しかけたり、インタビューしたりすることができた。
・体験活動の際、方法だけでなく活動の必要性や関わる方の思いについても大事にするよう心がけた。	・課題見つけや発表内容を取り上げる時、人の思いを取り上げる児童が多くいた。
・調べ学習、まとめ、発表などの学習活動で「大野(地域)」という表現を意図的に繰り返し、地域のよさに気づき、広げていこうという思いをもてるようにした。	・地域で生活する一員としての自分を意識するきっかけとなり、自分たちの生活を自分たちでよりよくするために「自分にできるボランティア」の3学期の学習につなげることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・体験活動の内容や進行について社会福祉協議会と密に連携し、教師がねらいを明確に持つことが大切である。児童に目的意識をしっかりともたせることも大切である。 ・同時に、ゲストティーチャーの方々とも、事前に学校からは「学習の目的」「学習内容」「学習の流れ」などの要望を、ゲストティーチャーからは「知ってもらいたい内容」「当日の活動の内容」を伝え合い、コロナ禍において活動の制限がある中でよりよい体験活動ができるように打ち合わせることが必要である。	

単元名

災害を調べよう・災害に備えよう

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

○自分たちが住んでいる地域にはどんな災害が起こりうるのかやそれに対して地域の方がどのように備えているのかを知ることによって、自分たちがどのように災害に備えればよいかを考え、それを実行する力を育てる。

【連携諸機関・人物】

○廿日市市役所大野支所防災担当の方
○大野1～4区の各区自主防災組織の皆さん

◆学習活動の実際（全32時間）

学習活動	他教科等との関連
●風水害を知ろう ・廿日市市役所大野支所の防災担当の人から、災害について話を聞く。 ●防災マップを作ろう ・自分が住んでいる地域ごと（1～4区）に分かれて、市が作成しているハザードマップをもとに、自分の家の周辺のハザードマップを作成する。 ●自分たちの住んでいる地域を調べよう ・自分たちが住んでいる地域ごとに分かれ、各地域の避難場所を見学する。その際に、各地域の自主防災組織の方に話を聞く。 ●分かったことをまとめよう ・見学して分かったことや考えたことを新聞にまとめる。 ●マイタイムラインを作ろう ・廿日市市役所大野支所の防災担当の人から、マイタイムラインの内容とその作り方についての話を聞く。 ・マイタイムラインを作る。 ●防災公園を見学しよう ・新しくできた防災公園を見学する。 ・見学したことをまとめる。 ・まとめたことを発表する。 ●単元全体の振り返り ・単元全体を通して分かったこと、思ったこと、考えたことを振り返り、まとめる。	【社会科】 ・自然災害から暮らしを守る

【児童生徒の感想・振り返り】	
・私は、避難訓練に参加して、もしもの時にどう行動すればよいかを身に付けたいと思いました。 ・私は、避難場所に見学に行って、地域の人たちが私たちを安全に過ごせるようにしてくれていることが分かりました。 ・もし、本当に災害が起きたら、この学習を活かして行動したいなと思いました。災害が起きても、すぐに行動できるように家族と話し合っておきたいと思いました。 ・避難場所には、いろいろな物が用意されていて安心しました。 ・調べてみて、自分の住んでいる地域には色々な対策がされていてすごいなと思いました。自分の家でもしっかり対策をしたいなと思いました。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・市役所の防災担当の方と連携して学習内容について情報を得たり、その防災担当の方に出前トークをしていただき、学習内容が深まった。	・自分たちが住んでいる地域を中心に話していただいたので、学習に対する意欲が高まった。
・地域の自主防災組織の方と連携し、避難所見学の時に話をしていただいたり、質問に答えていただいたりした。	・自主防災組織の方が、とても意欲的に関わってくださった（非常食作り・防災設備や防災道具の紹介など）ので、学習の理解が深まった。
【今後に向けた「改善点」】	
・今年度から新しく始めた単元だったので、手探り状態で学習を進めた。準備が十分でなかった点もあるので、今年度の反省を踏まえて、来年度しっかり準備したい。	

単元名

「大野の今を見直そう！」

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

大野にある様々な神社や史跡について知ることを通して、大野の歴史・自然・文化を大切に、今まで継承してきている人々の努力や苦労や願いに触れ、これからの自分の生き方について考える学習をする。

【連携諸機関・人物】

大野歴史ガイドの会

◆学習活動の実際（全23時間）

学習活動	他教科等との関連
● 今の大野の魅力・特徴「大野らしさ」について話し合う ・5年生までに学習した体験をもとに魅力や素敵な点を話し合った。 ・歴史の学習をふまえて、昔と今の比較や他地域との比較も話し合った。 ● 日頃、目にしているが、それは何かな？不思議だな？もっと知りたいと思うことを出し合う ・近所の神社について、お互いに交流した。 ・「西国街道」は、中山方面と高畑方面とにつながっており、史跡がたくさんあることを知った。 ・日頃自分達が、歩いている場所や遊んでいる場所については分かっているが、ここ大野には自分達の知らない場所がたくさんあることに気づき、もっと知りたいことを書き出すことができた。 ● 課題の設定 西国街道を歩き、遺跡や史跡を調べよう！大野に受け継がれてきた、人々の努力や願いを知り、自分達の生き方に生かしていこう！ ● 西国街道を歩いて情報を収集しよう ・大野歴史ガイドの皆さんやいきいき学級のリーダーさんに案内してもらって、西国街道の遺跡や史跡を探検した。 ・里塚や歌碑、駅家跡、貝塚などや「大野五郎伝説」などから、自分達の地域のすばらしさや先人の苦労や努力を知った。 ● 自分達一人一人の詳しく知りたいことを見つける ・更に詳しく知りたいことを資料やインターネットで調べた。 ● □□新聞の作成 ・調べて分かったことや、気づき、感想などを新聞にまとめ、校内掲示板に掲示した。	【社会】「大昔のくらしと国の統一」において、貝塚・里塚・街道などと地域の歴史を比較させ、当時の生活や社会の様子との関連を考えさせた。 【道徳】「天下の名城をよみがえらせる」において歴史的建造物を大切に、文化を継承することの苦労を学んだ。史跡を大切にしたり文化を継承したりしていくことの意義を考えさせた。 【国語】「まちの未来をえがこう」において資料を示して意見を述べる学習を行った。自分の調べたことをもとに大野の歴史について皆に呼びかける新聞を作成した。

【児童の感想・振り返り】	
・大野五郎伝説の話から、昔の人々が力を合わせて土地を開墾して豊かな土地をつくってきたことを知ることができた。また、高畑ため池や中山峠の話から、生産量を増やすための人々の努力と工夫を知った。先人の知恵や生き方から自分の生き方を考えることができた。 ・社会科の教科書に載っていた貝塚が実際に大野にあることを知り、感動した。貝塚には、人骨も入っていたと聞きとても驚いた。 ・大野には、こんなにも沢山の史跡や遺跡があることに驚き、誇りに思った。 ・小学校の前身が、睡蓮寺だと知って驚いた。(社会科の寺子屋の学習を想起していた児童もいる。) ・蓮華寺の鐘が第2次世界大戦後に、外国で見つかったことに驚き、社会の学習で聞いた話が身近でも起こっていたのが印象的であった。 ・大野には、色々な場所に神社があるが、それは大頭神社の末社だと知り、驚いた。また、今と違って昔は乗り物がないから、誰でもすぐにお参りできるように、たくさんの神社があるということを教えてもらって、昔の人の信仰の深さを知った。 ・知らないことが沢山あったので、もっと大野について調べたいと思った。(実際に調べに行った児童もいる。)	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・国語科「まちの未来をえがこう」の学習と関連付け、読み手の立場になって工夫した資料と記事になるように考えさせた。 ・実際に地域を見学し、ガイドさんの聞き取る活動を設定し、各自が深めていきたい内容をおさえ、調べ活動を行った。	・「ふるさと大野のよさ」を新聞にする際、分かりやすく伝わるように、調べた資料や写真などを取り入れ、表現することができた。 ・自分の住んでいる大野にたくさんの史跡があることを初めて知り、ふるさとへの愛着と誇りをもつことができた。 (各自の調べ活動、表現活動では、様々な工夫を凝らしていた。また、たくさんの児童がこの伝統を大切にしたいと報告していたから。)
【今後に向けた「改善点」】	
・新型コロナ感染対策のため、距離をとって話を聞くので集中力が欠ける児童がいたり、足早に史跡を次々と回っていくので話のスピードについていけず理解が難しい児童がいたりした。難しい語句は紙に書いて見せるなどの支援があるとよい。 ・「疣観音」と「歌碑」など、一つの場所に二つの史跡が混在している箇所があり、二つの話を間違っ	
・聞き取っている児童がいたので、事前に人物の話をするなどして予習しておくとうい。 ・資料やインターネットで調べたことを「写す」学習に留まっている児童に対して、多くの情報から必要な情報を取捨選択させる力をつけていく必要がある。	

単元名

「大野のステキを見つけよう」
～大野の達人から学ぼう～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

大野の達人（和菓子作り・烏神太鼓）から学ぶことを通して、大野の伝統文化に関心をもつと共に、人との関わりや大野の良さについて考え、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・妹背製菓 伊藤 彰二さん
- ・烏神太鼓メンバーの皆さん
（リーダー 三好 哲幸さん）

◆学習活動の実際（全28時間）

学習活動	他教科等との関連
〈大野に伝わる伝統文化に関心をもつ〉 ・広島県には、どんな伝統文化や祭り、名産品があるかなどを考え、地域の伝統文化への関心を高める。 ・大野祭りの様子や2年生の時の町探検の経験などから、大野にもステキな伝統の文化があることに気付く。→妹背製菓の和菓子、烏神太鼓 〈情報の収集①〉 ・他学年の児童や家族、地域の人へのインタビューやアンケートにより、大野の伝統がどれくらい認知されているかを調べる。 ・インターネットや図書を活用して、大野の伝統文化について情報を集める。 →低学年の子供達には大野の伝統文化はあまり知られていない。 →もっと情報を集めるために、伝統文化に関わる人達から話を聞いたり、体験をさせてもらったりしたい。 〈課題の設定〉 ふるさとの伝統文化について調べ、そのステキを周りの人たちへ伝えよう！ 〈情報の収集②〉 ・妹背製菓の伊藤さんからお話を聞かせてもらい、和菓子作りの体験活動を行う。	【社会科】「文化財と年中行事」において学習した「広島県に伝わる伝統文化」を導入の意識付けに結び付けた。
〈和菓子作りの様子〉    ・烏神太鼓奏者の三好さんからお話を聞かせてもらい、和太鼓の体験活動を行う。 〈和太鼓体験の様子〉   	【国語科】「お願いやお礼の手紙を書こう」において身に付けた「目的に合わせて書くことを選び、事柄を整理し、相手意識を持って丁寧な言葉で書く力」を「自分たちの学びや考えを手紙に書いて伝える活動」に活用させた。

〈整理・分析〉

- ・集めた情報をもとに、地域に伝わる伝統文化の価値について考え、それを守っていく人達の思いや願いについて話し合う。

〈まとめ・創造・表現〉

- ・お世話になった方々に、自分達の学んだことや考えたことを手紙にして届ける。
- ・大野の伝統文化のステキなところを伝えるための壁新聞作りに取り組む。
- ・学校の階段横の壁に掲示して、いろいろな学年の人達に読んでもらう。



〈振り返り〉

- ・学習の振り返りを行い、達人たちから学んだ「大野のステキ」について、これから守り伝えていくための自分の考えをまとめる。

〈壁新聞掲示の様子〉

【国語科】「みんなで新聞を作ろう」において身に付けた「目的に合わせて伝える内容を選んだり、色の使い方やレイアウトを効果的に工夫したりする力」を「新聞記事を書く活動」に活用させた。

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・和菓子作りは簡単そうに見えていたけど、やってみると、形を整えるのが難しかった。手で持っていると、すぐにやわらかくなり大変だった。けれども、その分出来た時の達成感があった。
- ・体験してみると予想以上に難しく、和菓子作りの達人はさすがだと思った。プロになるために、苦労していたんだなとしみじみ感じた。
- ・烏神太鼓を体験してみて、その音の大きさやばちの重さにびっくりした。
- ・太鼓は難しそうと思っていたけれど、たたいてみるととても楽しかった。教えてくださった人は、太鼓の楽しさをみんなに知ってもらうために、いろいろなくふうをしているんだなと思った。
- ・いろいろな太鼓の種類があったので、もっと調べてみたいと思った。
- ・大野にもいろいろな伝統文化があり、それを守っている人達がいるのがすごいと思った。和菓子や烏神太鼓の素晴らしさをもっとたくさんの人達に知ってもらいたいと思った。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】



【児童生徒の変容】

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策で、食べることはできなかったが、達人のご厚意で本物の練り切りを使って和菓子作り体験をした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単そうに見える和菓子作りの難しさや、達人の技術の高さを体感させることができ、それが多くの気付きにつながった。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・烏神太鼓の歴史について聞き取りをするだけでなく、体験活動をする中で、太鼓の楽しさを味わわせ、大野で太鼓を広めてきた人達の思いに迫った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・烏神太鼓を広めてきた人達の苦労を知るだけでなく、太鼓の楽しさや達人の演奏技術の高さにも気付き、その思いを広めたいという気持ちをもつことができた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会科との関連で、他地域の伝統文化や行事、祭りなどと比較させながら、自分達の住む地域のことを調べさせた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分達の住む大野にも、他地域に負けない素敵な伝統文化があることを知り、誇りに思うことができた。 |

【今後に向けた「改善点」】

- 今年度は、新型コロナウイルス感染対策のため、体験活動や学習後の発表の場にも制限があった。
 - ・来年度、制限が緩和されるならば、インタビュー活動や調べ活動などで、もっと地域の人との交流の場をもっていけるとよい。
 - ・学習したことの発表の場が、壁新聞のみで一方通行になってしまった。「3年生への発表」など対象を絞るとよかった。相手意識をもたせて内容を考えさせると共に発表後の感想を聞くことでもっと深まりのあるものにしていく必要がある。
- 課題に対して、自分の伝えたいことがはっきりしている児童とそうでない児童では、新聞作りへの取り組み方に差が出た。もっと自分の考えをはっきりさせた上で、調べ活動や体験活動に取り組ませていくとよい。

単元名

自然とともに生きる

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

- ◎宮島の砂防施設を実際に見学し、宮島の自然とともに生きてきた先人の知恵に触れ、これからも自然とともに生きようとすることができる。
 - ・自然の脅威を知り、実感することができる。
 - ・自然の脅威と砂防施設の役割や災害から身を守ることの重要性を知ることができる。

【連携諸機関・人物】

廿日市市役所大野支所 三浦様
広島県砂防課 岡崎様 船田様

◆学習活動の実際（全2時間）

学習活動	他教科等との関連
○ 宮島の土砂災害、砂防施設の役割や歴史について講師の方からお話を聞いた。 ・砂防施設がつくられる前、宮島には大きな土砂災害が起き、大きな被害があったことを学ぶことができた。 「写真を見ると すごい被害だな。」   ・宮島の砂防施設は、宮島の大事な宝「厳島神社」を守るためになくてはならないものであることを学ぶことができた。 「知らなかったことばかりだ。」  	【理科】 「流れる水のはたらき」 流れる水の、浸食、運搬、堆積のはたらきがあるから土砂災害が起きることをつなげて考えた。 【特別活動】 「防災教室」 動画での土砂災害の場所はこの場所だったのかとつなげて考えることができた。 【社会科】 「自然災害を防ぐ」 災害を防ぐための人間の工夫を肌で感じるすることができた。
○ 土砂災害の起こる仕組みやその被害について模型を使ってイメージした。 ・土砂災害の被害の大きさと、砂防施設があるときとないときの違いを学ぶことができた。また、砂防施設の災害を食い止める原理を見て学ぶことができた。 「砂防施設ってなかったら、 大変なことになるんだ。」  	

○ 実際に砂防施設を見学し、実際の機材を用いた説明を聞いた。 ・ 宮島の砂防施設の場所と大きさを知ることができ、目に見える部分だけが砂防施設ではないということを知ることができた。 ・ 砂防施設の建設には、様々な機材を使い、色々な人が関わっていることを知ることができた。 「最新の技術と、伝統的な技法が融合しているんだ。」	 「いつも見てきたところ がこんなにすごいところ だなんて驚いたな。」
○ 宮島の山の自然について調べ、何ができるか考える。(7～9年) ・ 植生回復に向けて苗作りを行う。 ・ 育ててきた苗木を植樹する。(土砂災害が起こりにくくする) 	【理科】 「自然と人間」自然界のつり合い、環境保全 植えた樹木が、今後土砂災害が起こらないことに役立ってほしいです。
【児童生徒の感想・振り返り】 ・ 社会でも砂防ダムを習ったけれど、やっぱり実際に見ると迫力がありました。土砂災害は 20 km/h から 40 km/h もスピードがでるらしいので早めに避難したいと思いました。 ・ 宮島の工夫された砂防ダムは、土砂災害も防ぐことができるし、自然にもやさしいづくりでした。 ・ ぼくは、砂防施設に生活を守ってもらっているんだなと思いました。自然と一体化した砂防施設はとてもすごいなと思いました。 ・ 宮島の建築のルールはとても厳しいけれど、そのルールを守りながらつくっているのがすごいなと思いました。 ・ ダムがあっても土砂災害は起こる（安心できない）と思いました。 ・ 土砂災害から命を守るために自分も工夫をしないとイケないなと思いました。	

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・ 理科「流れる水のはたらき」→特別活動「防災学習」→本時→社会科「自然災害を防ぐ」のように、カリキュラムマネジメントを行い、教科横断的な学習をさせることができた。	・ 流れる水のはたらきを理解するところから、土砂災害に関する知識を積み重ね、自分事として考えられるようになり、さらにその知識を生活に生かそうとすることができた。
・ 説明を聞くだけの学習ではなく、実物を見て、触って、感じられるように実際にその場所に行き、災害の脅威と宮島の砂防施設のすばらしさを全身で学ぶ学習とした。	・ 特別活動「防災学習」では、講師の方にスライドや動画を用いて説明をしていただいた。その際、児童は「説明を聞いて、これで命を守ることができそう。」という考えをもった。実際に砂防施設を見たり、災害のあった場所を体で感じたりすることで、児童の振り返りには、「災害は起こる。だから、自分も工夫をして生きなければならない。」という記述があり、自分の生活にいかそうとする考えに変容した。
【今後に向けた「改善点」】	
・ 本校の第5学年の学習では、宮島の自然について、防災学習と、海の生物調査を行った。海の生物調査では、環境を改善させるために何ができるかを考え、ゴミ拾いや調べ学習、発表を行った。防災学習と海の生物調査のつながりを児童に深く考えさせていくことが不十分だった。これができるれば児童にとってより深い学びにつながると思う。今後は、教師が「難しい」と思った課題やテーマでも投げかけて、児童に考えさせる場面をとるようにする。 ・ これらの学習をもとに第6学年の総合的な学習の時間では、自分たちの故郷宮島を「こんな町にしたい。」「だから、こうしよう。」という思いをもち、提案を発信するという学びにつなげていく。1年後の発信に向けた、よい学習の場になったと思う。	

単元名

“新しい”はつかいち・宮島学習

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

「地域の自然・産業・文化を比較して、ふるさと・はつかいち・宮島について調べよう」をテーマに、はつかいち・宮島について、ふるさとを見つめ直すことで、地域との関わりを捉え直すことができる。

【連携諸機関・人物】

- ・廿日市市観光協会
- ・観光ボランティアガイド（三村敏明）
- ・廿日市図書館

◆学習活動の実際（全15時間）

学習活動	他教科等との関連
【はつかいち・宮島を“知る”】 〈観光ボランティアガイドの話を聞く〉 ・観光ボランティアガイドの話を聞き、廿日市の有名人10人について知る。 →今まで知っていると思っていた廿日市にも知らないことがあるということを実感させる。 〈情報を調べる〉 ・図書室の本、廿日市図書館から借りてきた本、廿日市市が作成しているパンフレット（3種類）、インターネットを活用して、今まで知らなかったことについて調べる。 →ガイドの話からさらに調べてみたいと思った人物について調べたり、観光・産業・歴史・自然・文化・交通などのテーマを決めたりして、自分が今まで知らなかったことについてまとめる。 〈課題の設定〉 “新しい”はつかいち・宮島について伝えよう →廿日市市や広島市（広島県）に住んでいる人たちに向けて、県外に住んでいる人達に向けて、より細かく・より深く、調べて伝えよう。	“新しい”といっても、“最新”という意味ではなく、今までよく知らなかったこと、深く考えたことなどの、“新しい”気づきを“新しい”はつかいち・宮島として課題設定した。
【はつかいち・宮島を“伝える”】 〈リーフレットをまとめる〉 ・班でテーマ・対象者を決め、リーフレットとしてまとめる。 - 次の①・②のどちらかのまとめ方で行った。 ①これまでに調べてきた情報をもとに、誰に・どんなことを伝えたいのかを明確にしてまとめるようにする。（例：観光案内） ②これまでに調べてきた情報をもとに、廿日市がどうなればさらに発展するのかを企画してまとめる（例：企業誘致など） 〈リーフレット評価会〉 ・全ての班が作成したリーフレットをお互いに見合い、ベスト5を決める。 〈振り返り〉 ・学習の振り返りを行い、これからの学習につなげる。	【国語科】 「学校新聞の記事を書く」において、「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」を「学校新聞の記事を書く活動」につなげた。

【児童生徒の感想・振り返り】	
・自分たちで調べたことによって、廿日市には自分が知らないいろいろなスポットがあるということが分かった。 ・宮島にはこんなにいいところがあったのかと、新しい発見をすることができた。 ・もみじまんじゅうや牡蠣などのメジャーな食べ物だけでなく、あまり知られていない郷土料理なども廿日市にはたくさんあることが分かった。 ・読み手に伝わりやすいように、字体・配色・レイアウト・記事の順番や内容の焦点化を意識した。 ・絵や地図など、読み手が興味を持てるような工夫をすることができた。 ・みんながまとめてリーフレットを見て、改めて宮島に行きたいと思った。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・まずは個人で情報を集め、そこから班でテーマを決めたこと。	・いくつかの情報を自分が持った状態だったので、その情報を活用したり、補ったりしながら、班での活動をすることができた。
・国語科「学校新聞の記事を書こう」と関連付けた。	・記事の書き方や相互評価の仕方など、子どもたちに事前に教科で指導できていたので、子どもたちが自主的に記事を書いたり、評価を客観的に行ったりすることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・コロナ禍で、例年通りいかなかった部分が多かった。しばらくこの状態が続きそうなので、この状況でもできる活動を考えていく必要がある。 ・例年なら、宮島に実地研修に行ったり、フィールドワークを行ったりして、自分たちの目や足で情報を集めることができた。それができない中で、子どもたちに当事者意識を持たせることが課題だった。 ・SDGsとの関連について、もっと意識させるとまた違ったふるさと学習になると思った。	

単元名

「ふるさと廿日市の企業をプレゼンしよう」

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

「廿日市市とつながりのある企業や商店について情報収集し、発表（企業をPR）することで、情報活用能力や表現力を育成する。」

【連携諸機関・人物】

・廿日市市とつながりのある企業や商店

◆学習活動の実践（全29時間）

学習活動	他教科等との関連
〈ふるさと廿日市と繋がりのある企業について知ろう〉 ・廿日市市にある企業や商店、廿日市市の名産と繋がりのある企業や商店について知り、PRする企業を決定する。 〈PRする企業について情報収集しよう〉 ・インターネット等を活用して企業の情報収集を行う。 ・調べた情報の中でPRしたい内容を精選し、情報を整理する。 〈調べた企業の壁新聞を制作し、発表しよう〉 ・グループで調べた企業のPRしたい内容を壁新聞にまとめる。   ・新聞発表（企業PR）を行う。 〈プレゼンテーションソフトを使って発表資料を制作しよう〉 ・課題解決に向けてさらに探究するために、企業への質問内容、方法を考える。（企業への訪問・電話による質問・メールによる質問） ・質問へ向けてのマナー学習。 ・企業への質問。  ・プレゼンテーションソフトを活用しての資料制作。 〈企業PRを他学年にプレゼンしよう〉 ・発表準備、リハーサル ・企業PRのプレゼンテーション。今回は、クラス発表、同学年への発表、下級生への発表の3段階に分けて実施。	【国語】「案内や報告の文章を書こう」の単元の、読者を引きつけるような内容を織り込むことや文章やメモから必要な情報を選び、掲載媒体の形式に応じてわかりやすい構成でまとめる学習内容を「新聞制作」に関連付けた。 【国語】話し方、敬語の学習内容をマナー学習に関連付けた。 【技術】メディアの統合方法や情報機器の操作をプレゼン資料制作に関連付けた。 【国語】「説得力のある提案をしようプレゼンテーション」の内容を発表に関連付けた。



〈振り返り〉

- ・お世話になった企業へ礼状を書く。
- ・発表のまとめと振り返りを行い、自己の資質・能力を高めることに繋がったか確認する。

【国語】「依頼状やお礼状を書く」の内容を礼状作成に関連付けた。

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・地元の企業が現在まで成長してきた努力や苦労が分かりました。企業の精神などを見習って自分も明確な目標を持っていこうと思った。
- ・「分かりやすくまとめる」ということがあまりできなかったので、これからは、分かりやすくまとめる・見やすくするという意識していきたい。
- ・私はチチャスを調べて、学校の給食とのつながりも分かったので毎日感謝して飲もうと思った。班でプレゼンテーションをするのに一人一人役割を持ってできた。
- ・普段何気なく食べているものは、誰かが自分達のために作ってくださっていることを知り、感謝して食べるべきだなと思った。私は将来、食べ物を作ったりする仕事には就かないと思っていたけどお客さんのために一生懸命作る仕事はカッコよくて、そういう企業が廿日市にはあるので就けたらいいなと思った。
- ・もみじ饅頭の企業を調べ、宮島では簡単に作っているように見えたもみじ饅頭がその企業特有の工夫点があり、どこの企業もそれぞれで工夫点が違うから味に違いが出ていると分かった。
- ・企業の人の話を聞き、何年もかけて考えたことが一瞬でダメになることもあって、自分だったら嫌になることも「思い」があって仕事に取り組んでいるのはとてもカッコいいと思ったし、自分もそうなりたかった。改めてもみじ饅頭の美味しさを感じ、前よりも味わって食べるようになった。また、調べて分かった発見を家族の人にも伝えた。
- ・宮島杓子の企業を調べて、昔からの伝統の良さを学べた。仕事について語ってもらい、その仕事の良さを知れ、とても楽しかった。
- ・けん玉を製作している企業を調べ、普段は深く考えることのない企業の細かい工程や気をつけていることなどを知ることができて良かった。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】



【児童生徒の変容】

- ・情報収集（インターネット→企業への直接質問）や情報整理（壁新聞→プレゼンテーションソフト）の方法を段階を踏みながら進めていく。
- ・発表の回数をできるだけ増やし、発表相手もかえる。

- ・課題解決に向けて各自が課題を探究しようという意識が高まった。
- ・発表を重ねるごとにより良い発表にしようという相手意識が生まれ、また表現力も高まった。

【今後に向けた「改善点」】

- ・今年度は、職場体験学習が実施できず代替の内容として実施した。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、企業へ直接訪問しての質問が難しく、ふるさと廿日市の企業の特色や良さを実際に体感することができにくかった。今後は実際に体験できる内容を入れることで、これからの自己の生き方を考えることに繋げていく。

単元名

よりよいふるさと阿品・阿品台 ～中学生から発信！ステキな街づくり～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

自分たちが住むふるさと阿品・阿品台について改めて知り、より暮らしやすい街にするための提案について、自分たちからできる地域貢献・地域参画を考え、発信できる。

【連携諸機関・人物】

阿品台コミュニティ
阿品台を考える会
暮らしと学びの森阿品アカデミー
阿品台一丁目老人クラブ
廿日市市役所
日赤看護大学

◆学習活動の実際（全17時間）

学習活動	他教科等との関連
〈阿品・阿品台の魅力と課題を発見・交流しよう〉（2） - 阿品・阿品台の良い所や課題について、家族や地域の人にインタビューしてまとめる。（宿題） - インタビューし、調べてきたことを班やクラスで交流する。 - よりよい阿品・阿品台へ向け、地域に詳しい人へ伺う質問を考える。	
課題の設定：よりよいふるさと阿品・阿品台のために、自分たちからできることを提案しよう。	
〈阿品・阿品台の魅力と課題を地域の方々と探ろう〉（3） - 地域の人から地域の歴史や実態を聞く。 - よりよい阿品・阿品台へ向けた課題（テーマ）を班ごとに設定する。	
〈よりよい阿品・阿品台へ向けたアイデアを創造しよう〉（6） - 自分たちができることを、具体的に、どんなねらいでどのように行うのか考え、企画書にまとめる。 - 図書資料やICT等を活用した情報収集や分析を行う。 - 提案発表へ向けた係分担をする。 - 班ごとにパンフレットやパワーポイントを活用したプレゼンテーションづくりを進める。	【社会】「地方自治」において、地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであることを、実社会とのつながりから体験的に学習できるよう関連付けた。
〈よりよい阿品・阿品台へ向けたアイデアを提案・発信しよう〉（4） - クラス内相互評価によるコンペティションを行う。 - 地域の方々に招待し、よりよい阿品・阿品台のアイデアを提案発表する。 - 地域の方々から講評をいただく。	【国語】書くことにおいて、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする学習と、新聞への投稿を関連付けた。
〈振り返り〉（2） - よりよいふるさと阿品・阿品台を通して学んだことを新聞に投稿する。 - よりよいふるさと阿品・阿品台を通して、キャリア教育としての自分創りや自分の生き方がどのように自己更新したのか考え、振り返る。	

【児童生徒の感想・振り返り】	
・学習前後のアンケート調査から、「廿日市市が好きだ」と答えた生徒の割合は、80%から88%に増加した。また、学習を通して92%が「廿日市市に興味をもつことができた」と回答した。 ・今まで14年間阿品に住んでいて、あまり魅力に気がつけなかったけど、この企画を行ってからこの町のいいところ、自慢できるところを知ることができた。この町が好きになった。魅力やもっとよくしていける方法などを考えられるようになった。計画を立てることの大切さを学んだ。 ・企画することの難しさや伝わりやすい話し方を学んだ。 ・主体的に動くという考えを持つことが大変重要だ。 ・地域の方々が発表を真剣に聞いてくださってうれしかった。 ・この町の一番いいところは人と人とのつながりだ。 ・私はこの町に住んでよかったと心の底から思う。 ・地域の人と触れあえたことに感謝し、今後も行事等に積極的に参加したい。 ・もっとこの町を知り、新たなアイデアを発見したい。 ・これから新しい課題も出てくるので、対応する能力を持てるようになりたい。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・家族や身近な地域の人へのインタビューを通して、課題を自分事にできるようにした。	・実社会とのつながりをもたせることによって、主体的な学びにつながっていた。
・地域の方々に話を聞いたり、講評をいただいたりすることで、共に学びを創造できるものとなるようにした。	・改めて地域の良さを知り、探究することを通して、愛着や誇りを持ったり、課題を見出し、解決策を構想・提案して、自己有用感を感じたりしていた。
・自分たちで学びを探究できるよう、相互評価を重視した。	・他者意識をもち、自分たちで地域社会や学びを創るという意識へつながった。
・振り返りや相互評価において、学校全体で取り組む「課題解決力」「自己有用感」を意識した。	・他教科や学校生活全体とのつながりをもつことができ、自分づくりや生き方をより考えることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・今回は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、急遽実施した企画であったため、小学校や他学年とのつながりが十分に図られていなかったように感じる。今後はこれらを充実させていくことでより探究を促すことができると考えられる。 ・当初は、アイデアを提案の後、学年と地域の方々によるコンペティションを通して1～2つのアイデアを実践しようと計画していたが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から叶わなかった。生徒も残念に思っていたため、実践まで含めた単元としたいところである。	

単元名

廿日市市について探ろう
～宮島学習～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

世界文化遺産に登録されている厳島神社を有する宮島について調査することにより、地元地域に関心を持たせ、ふるさとに誇りを持つ生徒を育てる。

課題解決のために小集団で協力をするを通して、問題の解決に主体的・協働的に取り組む態度を育む。

【連携諸機関・人物】

- ・厳島神社
- ・宮島水族館
- ・宮島歴史民俗資料館
- ・宮島観光協会 他

◆学習活動の実際（全19時間）

学習活動	他教科等との関連
〈課題設定〉 ・廿日市や宮島についての基本情報を確認し、学習テーマの確認を行った。 ・自分たちの住んでいる廿日市や宮島について知っていることを整理した。 〈情報収集と現地調査の準備〉 ・チェックポイントとなっている「厳島神社」「豊国神社」「大聖院」「宮島歴史民俗資料館」「宮島水族館」「紅葉谷公園」について、インターネットや書籍を用いて情報を集めた。 ・事前調査で分からなかったことを整理し、現地調査で明らかにすることを整理した。 ・観光協会から配布されているリーフレットを読み、どのような情報を載せるべきか検討し、リーフレットの構成を考えた。 〈現地調査〉 ・チェックポイントを中心に施設の見学を行った。班ごとに観光客や現地の方へのインタビューや商店街の散策などを行った。 現地調査の様子 〈整理・分析〉 ・事前調査や現地調査を通して分かったことをワークシートに整理した。 〈まとめ・創造・表現〉 ・整理・分析した内容をもとに、リーフレットの作成を行った。 ・作成したリーフレットを校内に展示し、生徒や保護者に向けて発表した。	【道徳】宮島彫りに関する教材を通して、伝統と文化を大切にしようとする態度を育てた。 【国語】読み手に情報が伝わるようなリーフレットの記事の構成を考えた。



生徒が作成したリーフレットの例

【児童生徒の感想・振り返り】	
・インタビューを積極的行ったり、見学では写真だけでなくメモを取ったりすることで、よりよい記事を作ることができた。 ・廿日市には、他県や海外の人たちに自慢できる魅力がたくさんあることが分かった。 ・リーフレットの記事を作るときには、どうすれば情報が伝わりやすいものになるか考えながら作成することができた。 ・廿日市といえば宮島や厳島神社のイメージが強かったが、山や海に囲まれて自然豊かなところや、知らなかった特産品も多くあり、まだまだ知らない事ばかりだった。 ・今回の学習を通して、世界遺産や宮島の良さ、廿日市の知らなかったことを知り、廿日市のことが好きになった。 ・廿日市には、世界遺産に登録されたものがあり、それを見るために県外や海外から多くの人を訪れていることを知って、誇らしいと思った。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・班員が1ページずつ担当をしてリーフレットの作成を行った。	・与えられた役割を責任をもって果たそうとする姿勢が見られた。
・実際のリーフレットも参考にしながら、構成を考えた。	・写真やイラスト、文字のデザインなど、工夫を凝らしてリーフレットを作成した。
・現地調査では、班ごとに行程を立てて行動した。	・班員ごとに係を決め、班活動に貢献したことで、自己肯定感を高めることができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・作成したリーフレットは、来年度に実施を予定している修学旅行にて他県の方へ配布し、宮島をPRする予定である。それ以外にも、宮島観光協会や旅行会社などと連携をすることで、より多くの方の目に触れることができるようにし、宮島や廿日市のPRにつなげたい。 ・生徒への発表の場も、展示だけで終わってしまった。作成したリーフレットをプレゼンテーションなどで生徒間で交流し、改善・修正をする時間を設けてもよかった。	

単元名

「ふるさと廿日市の魅力を学ぼう」 ～廿日市の食、情報、製作から～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

自分たちが生活している廿日市で、ふるさとのために頑張っている方をゲストティーチャーとしてお招きし、それぞれどのような思いで、どんな取組をされているかということを知ることで、廿日市への関心を高め、その魅力を学び、ふるさとのために何か行動しようという意欲を持たせる。

【連携諸機関・人物】

増本年治さん
濱本恵津生さん
倉本良一さん
石原弘善さん

◆学習活動の実際（全32時間）

学習活動	他教科等との関連
〈オリエンテーション〉 ・ふるさと学習の目的と学習計画を確認する。 ・廿日市クイズに答えよう ・廿日市の歴史、自然、特産物等のクイズにチャレンジし、どれくらい廿日市のことを知っているかを確認する。 〈課題の設定〉 ふるさと廿日市の魅力って何だろう 〈情報の収集〉 ・廿日市の歴史、自然、特産物、観光などについて調べ、集めた情報を整理し、レポートにまとめる。 廿日市で頑張っておられるゲストティーチャーから、廿日市の魅力を学ぼう ① リスランテトーマスシェフ 増本年治さんによる「料理で人を幸せにしたい～廿日市の食材を生かした料理の創造～」 廿日市の食材である、ムール貝やあさりの素材を生かし、おいしい料理に変えていく工夫についてお話いただいた。また、濱本水産の濱本さんからムール貝について詳しく話をいただいた後、増本さんの指導により、ムール貝のオリーブオイルパスタを作った。 ② FMはつかいち局長 倉本良一さんによる「地元の情報を楽しく届けたい～地元のつながりを大切に～」 情報の集め方やどのように楽しく情報発信しているのかについて、お話していただいた。生徒の代表がラジオ番組に出演し、インタビューを受けた。また後日、「効果的なインタビュー仕方について」の授業もしていただいた。 ③ 石原工芸株式会社代表取締役 石原弘善さんによる「段ボールで医療現場を支えたい～開発の原動力」 段ボールを新しい発想で活用し、簡易防護ボックスやシールドを製作し、医療現場を支えようと立ち上がったお話をしていただいた。避難所で使う段ボールのベッドをいただき、一緒に組み立て、実際に使わせていただいた。 〈まとめ〉 ・これまで聞いた講話や実習から、廿日市の魅力とは何か、どんなことを考えたか等をまとめて新聞を作成した。班で模造紙1枚程度にまとめ、四季中表現発表会で展示した。 〈振り返り〉 ・学習の振り返りを行い、これからの自己の生き方について考えた。	【英語】自己紹介やインタビューなどの表現活動と連携して取り組んだ。 【保健体育】コロナ感染対策と連携して取り組んだ。



調理実習の様子

【児童生徒の感想・振り返り】	
・ 廿日市の食材であるムール貝は、牡蠣の天敵で、色が黒いことから、縁起が悪いと言われていたそうですが、どうしたらこのよさを伝えられるのか、いろいろと料理の仕方を工夫して皆に広めていったそうです。増本さんがシェフとしてやりがいを感じていることは、地元の食材を使った料理を、地元の人に「おいしい」と喜んで食べてもらえることだそうです。私も皆が幸せになれる「廿日市」をつくりたいと思いました。 ・ 人のために何かものを作る時は、どうしたらその人が喜んでくれるのかを考えて作るということを、増本さんはいつも大切にしているということがわかりました。私たちが住んでいる廿日市には、海や山など自然が豊かで、めずらしい食材がたくさんあって、外国の人と交流ができるという良い所がたくさんあるということもわかりました。今日のお話を聞いて、私ももっと廿日市の良い所を見つけて、地元を大事にできる人になりたいと感じました。 ・ 倉本さんは、「地域のラジオがすべきことは何か」ということをよく考え、町が元気になる、皆の役に立つ防災や災害時のメディアとして活躍するラジオをつくっているということがわかりました。この機会に私もラジオを聞いて、地域のことや地域で頑張っている人について知りたいなと思いました。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・ 実際にムール貝を使った調理実習ができたことがとてもよかった。ムール貝について濱本さんから話が聞けたことや自分たちで下処理までやったことがよかった。 ・ 「効果的なインタビューの仕方」の授業では、実際にFMはつかいちの倉本さんのインタビューの仕方を見て、とても参考になった。	・ 今まであまり知られていなかったムール貝をととても身近に感じることができ、「また作ってみたい」と意欲的な姿勢が見られた。 ・ 目線や声の大きさ、間のとり方に気をつけて、相手を意識してインタビューをするようになった。
【今後に向けた「改善点」】	
・ 今年度は、自然体験学習の中止などで現地調査ができなかった。また効果的なインタビューの仕方に取り組んだが、それを実際に試し、表現する場がなかった。来年度は学習のまとめとして、相手に伝えるということを意識して、表現力が高まるように取り組んでいきたい。	

単元名

「ぼくたち わたしたちに今できること」

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自粛生活を余儀なくされている地域の現状や、福祉の状況を知り、自分たちが今できることを考えることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

廿日市市社会福祉協議会 佐伯事務所
副所長 栗栖 和恵 さん
廿日市市役所地域包括支援センターさいき
主任介護支援専門員 中原 洋子 さん
佐伯地域 ふれあいサロン

◆学習活動の実際（全12時間）

学習活動	他教科等との関連
＜情報の収集＞ 新型コロナウイルス感染症防止のため、私たち中学生も自粛生活を余儀なくされたが、佐伯地域の高齢者の皆さんはどのように過ごされていたのだろうか。 - 廿日市市社会福祉協議会佐伯事務所の栗栖さんと廿日市市役所地域包括支援センターさいきの中原さんから佐伯地域の高齢者の皆さんの様子を聞く。 高齢者の皆さんも、私たちと同様に、不自由な生活を送っていたんだな。 ＜整理・分析＞ - 高齢者の方の現状と課題をまとめる。 - 課題から、高齢者の方に今必要なものは何かを考える。 ＜課題の設定＞ 佐伯地域の現状を知り、自分たちにできることはないかを考える。 高齢者のフレイル（身体的機能や認知機能が低下した状態）を防ぐために必要な、つながり、運動、食生活を意識して、自分たちができることを考えよう！	
＜実行＞＜まとめ・創造・表現＞ ① ＜課題の設定＞において自分たちで考えた取組の中から6つの取組を選択し、各グループに分かれ作成する。 【運動のDVD】 ラジオ体操やストレッチを工夫して見ながら、一緒にできるDVDを作成した。 【マスク作り】 生地を裁断から、ゴム通しまで工程を分担し、すべて手縫いで作成した。 【脳トレ】 クイズや計算問題など、様々な種類の問題を作成し、イラストをつける等の工夫をした。 【料理レシピ】 高齢者に必要な栄養素であるたんぱく質に着目したレシピや豆知識を、イラスト入りで記載した。 【メッセージカード】 高齢者の皆さんへの応援メッセージやイラストを、一枚一枚手書きで心を込めて作成した。 【メイキング】 各グループが作成している姿を取材したメイキングビデオと、生徒のメッセージビデオを作成した。	【家庭】 「資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために、布を用いた物の製作計画を考え、製作をする活動」を「マスク作成」と関連付けた。 【保健体育】 「体づくり運動に自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする活動」を「ラジオ体操第一」と関連付けた。 高齢者の皆さんに分かりやすく伝えるにはどのように表したらいいのかな？ 高齢者の皆さんによるこんでもらえたらうれしいな！

【作品の一例】



② 贈呈式を行う。

- ・地域に31か所あるサロンの代表の方に来校いただき、生徒が作成したプレゼント31セットを贈呈する。



佐伯地域の高齢者の皆さんから
お便りをいただきました！



高齢者の皆さんが喜んでくれてうれしいな。
僕たちのラジオ体操に合わせて一緒に体操してくれてうれしかったな。
佐伯地域の高齢者の皆さんがいつまでも元気でいてほしいな。

〈振り返り〉

- ・学習の振り返りを行い、取組の意義を確認するとともに、地域への参画や、自己の生き方について考える。

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・活動する前はそんなに役に立つのかわからなかったけれど、活動後はやってよかったなと思いました。また、高齢者の方に元気を与えることができるんだなと思いました。これをきっかけに、地域の役に立つことをしたいなという気持ちになれました。
- ・今まで一度も話したことのなかった人と今回の総合でグループになり、話し合いをして仲良くなれました。自分の意見を考えてちゃんと言えたし、相手の意見を聞くことができました。私はこれを生活に生かし、また話し合いがあるときにはどんどんいいものを作れるように頑張りたいです。
- ・今、コロナが流行っている中でも、できることがたくさんあることが分かったし、誰かのために協力して作ることはすごく楽しいことや、みんなと協力して作ることはとても楽しいことなど、いろんなことを感じました。また、家族のみんなが楽しんでもくれるような物を作れたらいいなと思いました。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】



【児童生徒の変容】

- ・佐伯地域の高齢者の方の現状を、実際に取り組まれている方に直接話を聞いたり、自分たちの生活と比較したりすることで、問題意識を持てるように工夫した。
- ・教員が与えた取組内容ではなく、自分たちで考えた取組を実際に実践し、やり切らせることで、より主体的に、より共同的な活動になるようにした。

- ・専門的な立場から、高齢者の方の現状や、高齢者に今、必要とする要素を教えてもらうことによって、自分たちにできることは何かを具体的に考えることができた。
- ・生徒の感想の中で、「一人ではできないけれど、みんなと協力すればできることがあることに気づいた。」という要旨の感想が多く見られた。

【今後に向けた「改善点」】

- ・今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための自粛をテーマに実施したが、この取組や経験を地域参画への意識向上につなげていきたい。
- ・地域へのプレゼントを作るのに、計画以上の時間がかかってしまった。生徒が十分に考えながら取組ができる時間を確保し、計画を立てる必要がある。

単元名

大野元気プロジェクトⅠ～身近な地域から学ぶ～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

世界遺産のある宮島にたくさん人が集まる理由を多面的・多角的に考察・検証し、その結果をスライドにまとめ、発表する活動に取り組む。

【連携諸機関・人物】

廿日市市役所宮島支所
厳島神社
宮島水族館
宮島観光協会
島内の事業所の方々

◆学習活動の実際（全35時間）

学習活動	他教科等との関連
〈学習の見通しを持つ〉 ・3年生での学習を先輩の発表資料から知り、今後の学習の見通しを持つ。 〈課題の設定〉 大野に最も近い観光地宮島には、「なぜ多くの人が集まるのか」仮説を立て、検証しよう！ ・班ごとに、それぞれ仮説を立て、探究活動を行う。 〈情報収集〉 ・インターネットを活用して、宮島について調査する。 ・インターネットで得た情報をもとに、人が集まる理由の仮説を立てる。 〈計画の立案〉 ・仮説検証のための調査計画を立てる。 （訪問場所・質問相手等具体的な内容や活動時間、活動経費等を検討する） 〈現地調査を実施するために〉 ・新聞記者による取材方法の講座を受け、具体的な取材方法について学ぶ。 ・マナー講座により、インタビューの仕方や訪問の仕方を学ぶ。 〈現地調査の実施〉 ・立てた計画に沿って、必要な情報を集めるために訪問、インタビュー、撮影活動を行う。 〈検証結果をスライドにまとめる〉 ・調べてわかったことを図や表、グラフ、撮影してきた写真などを用いてまとめる。まとめの際には、パワーポイントを活用し、スライドにまとめる。 ・仮説・検証が論理的にまとまっているか検討をする。 ・学級でそれぞれの班が発表し、学級代表が学年発表を行う。 〈振り返り〉 ・学習の振り返りを行い、地域に参画することの必要性について考える。	【技術】 「ICT機器の活用」の学習を「インターネット検索」に活用した。 【国語】 「会話がはずむ質問を考えよう」の学習を「相手に合わせた質問の作成」に活用した。 【英語】 「道案内の学習」を「外国人観光客のインタビュー」に活用した。 【国語】 「目的に合わせて伝える内容や表現方法を工夫する学習」を「スライド発表原稿作成」に活用した。 【技術】 「ICT機器の活用」の学習を「パワーポイントによるスライド作成」に活用した。



〈宮島での現地調査〉

【児童生徒の感想・振り返り】	
・「店の思いが客に伝わる」ことが分かれば仮説が立証できると思い、インタビューを100人にした。班員と協力して根拠のある内容にできた。グラフや数値、表現の仕方を工夫してなるべく伝わりやすいように工夫した。何度も仮説を疑って調査をしてみるともっと内容の濃いものになっていたと思う。 ・宮島を調べて、大野のよさは「大野自然観察の森で、もみじが見られるなど自然を感じられる」「カキ、あなごが食べられる」「神社で様々な行事やお祭りがある」ことではないかと思った。 ・宮島支所では1つ1つの質問に丁寧に答えてくださった。あなご飯ふじた屋ではお店の中は和の感じで、ミシュランガイドにのるすごい店だということが分かった。杓子の家では資料や実物を見せていただきわかりやすかった。もみじ堂では無料で飲めるお茶や、あげもみ神社がありおもてなしの設備が整っていた。その後観光客にインタビューをしたところ、宮島のサービスに満足している人がほとんどだった。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・自分たちの視点を持たせて、調査活動をした。	・大野のよさに気づくことができた。
・プロジェクト全体（3年間）のゴールイメージを示し、総合的な学習の時間の見通しをもたせた。	・ゴールイメージからやるべきことを逆方向に考え、調査やまとめの計画を主体的に考える姿が見られた。
・仮説→検証→考察→発表の流れを学習の中で一貫させ、まとめにも意識をさせた。	・班ごとに仕上げたスライドに生徒個々の学習の内容や流れが入り込んだまとめができた。
・新聞記者から取材の仕方を学び、インタビュー活動や現地調査の場を設定した。	・仮説検証に向けて、観光客や事業所の方の思いを聞き取るなど、目的意識を持った現地調査活動ができた。また、具体的な調査活動により、まちづくりに必要な要素をつかむことができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・自分たちが住む地域に愛着や誇りを持たせることができるように、もう少し具体的に目的意識を持たせた学習展開を考える。	

単元名

「地域を知ろう」 ～大野検定をつくろう～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】自分たちの住んでいる町のよさを多くの人に知ってもらうために、町について詳しく知るとともに、知ったことをもとに「大野検定」クイズを作り、発信する力を育てる。

【連携諸機関・人物】
大野町商工会青年部
クイズ作成の専門家

◆学習活動の実際（全30時間）

学習活動	他教科等との関連
〈大野についてどれだけ知っているか、確かめてみる〉 ・小学校で学んだことや実際に見聞きしたことを思い出してみる。 ・実際には忘れてしまっていたり、語句として覚えてはいても詳しい内容については知らなかったりすることを実感する。 「ハートバスの『ハート』はどういう意味？」 「旧大野町はどこからどこまで？」 「町の木『ベニマンサク』はどこに行けば見られる？」 〈課題の設定〉 『大野検定』をつくって、みんなに大野のことを知ってもらおう！ ・合併して「大野町」はなくなったけれど、大野に住んでいる私たちは大野について知り、そのよさを多くの人に伝える必要がある。 ・大野を知り伝える方法として「大野検定」を作成することにする。 「作成のためには、大野について詳しく調べなくてはならない。」 「検定を通して、大野に興味を持ってもらうことができる。」 〈「〇〇検定」について知る〉 ・「〇〇検定」とはどんなものか知るために、「宮島検定」を見てみる。 ・「宮島検定」の真似をして「大野検定クイズ」を作ってみる。 - 気づき 「まだまだ、浅いクイズしか作れない。みんなが答えを知っているようなクイズでは面白くない。」 「クイズを作ってはみたものの、それは本当にそうか調べてみないとわからない。」 〈大野についての情報の収集〉 ・インターネットやDVDで情報を収集する。 「もっといろんな情報を見つけるために、大野を歩いてみる必要がある。」 ・フィールドワークに出かけ、自分の目や耳で情報を収集する。 ・さらに知りたいことを整理する。 ・大野に詳しい人をゲストにお招きし、（大野町商工会青年部 村田さん）直接話を聞いてみる。→リモートでお話を伺う。 〈「大野検定クイズ」づくり〉 ・クラスの班でクイズとその解説を作成する。 ・できたものをクラスで吟味する。 ・さらに全体で吟味して、問題を絞る。	【社会】「歴史の流れをとらえよう」で大野町史などを用いて、「身近な地域にも歴史があること」を学習し、関連付けた。 【国語】「構成を考えて書こう」における「書く材料を集め分類し、構成を考えて書くこと」の学習を、解説の



〈フィールドワーク〉



〈リモートインタビュー〉

〈できあがったクイズを再度吟味する〉 ・クイズづくりの専門家に作成したクイズを評価してもらったり、クイズづくりのコツを教えてもらったりする。 ・クイズを再度見直す。 〈作成したクイズでクイズ大会を開く〉 ・クラス予選→クラス対抗「大野検定」早押しクイズリモート大会 〈振り返り〉 ・次年度の1年生に引き継ぐことを確認する。 「大野中学校学区の問題が少ないので、増やす必要がある。」 「解説の正確性を確認したり画像を精選したりしないといけない。」 「『広報はつかいち』に載せてもらうことになっているので、完成度をあげてほしい。」 「完成した『大野検定』をどうやって多くの人に受検してもらうか考えてほしい。」 〈来年度の活動をイメージする〉 ・来年度は、今年度知ることができた大野のよさや廿日市のよさを修学旅行先の京都で多くの方にPRする。	 〈クイズの作成〉	作成に活用した。 【技術】「情報に関する技術」の「コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組み」の学習を、「ワード」を用いて解説を作成することと関連付ける。
---	--	--

【児童生徒の感想・振り返り】	
・フィールドワークでは、自分から周囲の人にインタビューをして情報を聞くことができた。地域の方とコミュニケーションがとれたので良かったし、みなさん優しい人ばかりで良かった。 ・班の人と協力して「ここはこうしたらいいんじゃないん？」「こっちの方が分かりやすいよね」と試行錯誤しながらクイズを考え、作ることができた。 ・クイズに必要な情報を探しているときに、自分が知らなかったことをたくさん知ることができたし、その場所について細かく知ることができたので良かったです。パソコンにうったりするのが難しかったけど、分かりやすくなるように工夫して解説や問題を書くことができました。 ・大野についてよく知ってもらって、誰もが楽しめるようなクイズを作れるように頑張りました。	
【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
・「大野検定をつくる」というゴールを明確にして、活動に取り組ませた。	・多くの人に楽しんでもらえるような検定クイズにするにはどうすればよいか、主体的に考え学習することができた。
・できたクイズを広報誌に載せてもらうことや、実際に実施できるものにすることを伝えた上で学習を進めた。	・自分たちのつくったものが「本物」になるということで、意欲的に活動することができた。
・リモートではあったが、ゲストをお招きし、質疑応答を中心にしたお話を聞く会を設定した。	・メモをしながら聞くことや分かりやすく話すことを意識することができた。リモートでの双方向学習を体験することができた。
【今後に向けた「改善点」】	
・クイズの解説を作成するためには、収集した情報を正確に読み取りまとめる力が必要となる。国語との関連の仕方をさらに効果的にする必要がある。 ・今年度は、新型コロナウイルスの影響で、1学期からスタートすることができず、予定していた活動までいきつくことができなかった。大野検定をしてくれた人からの反応があれば、自己有用感を高めることにもつながっただろうと思う。来年度の活動もどのようになっていくかわからないが、臨機応変に進めるとともに、何かしら外部の方からの反応をいただき、少しでも地域に貢献することができたと実感できるような取り組みにしたい。	

令和2年度 「ふるさと学習」に係る取組《廿日市市教育委員会》

RO2「ふるさと学習」シティプロモーション室との連携

学校での総合的な学習の時間において、シティプロモーション室と連携し、地域で活躍されている方や企業、市役所職員の方々を講師として招聘し、授業を行いました。

廿日市小学校5年生



わたやデリカの方に協力してもらい、5年生が考えた弁当を販売しました。

廿日市小学校6年生



市役所（農林水産課、観光課）職員や地御前漁協の方から廿日市の魅力について話を聞きました。

友和小5年生



シティプロモーション室の職員から廿日市市の現状等について話を聞いたり、児童のプレゼンでは、キャリア教育デザイナーの大野氏やシティプロモーション室に参加してもらったりしました。

RO2「ふるさと学習」発表会

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ステージでの「ふるさと学習発表会」が中止となり、動画撮影によるオンライン発表となりました。発表に向けて、キャリア教育デザイナーの大野氏にアドバイスをいただいてブラッシュアップを行い、撮影においては、廿日市市教育委員会教育委員の大島氏に協力していただきました。

廿日市小学校5年生
「地産地消のオリジナル弁当を作って販売しよう」



原小学校3年生
「紹介します！私たちの米作り！」



友和小学校5年生
竹炭の魅力を伝えよう



佐伯中学校2年生
「ぼくたちわたしたちに今できること」



展示発表

